





社是

# 至誠と創造

リンテックグループのCSRの根幹は、社是「至誠と創造」にあります。  
これは、私たちの“あるべき姿”です。

「至誠」とは、どうすれば役に立ち喜ばれるかを考え、すべての仕事に真心を込めて取り組むことです。

「創造」とは、現状に満足せず、より高い付加価値を求めて常に工夫と改善に取り組むことです。

あらゆるステークホルダーに誠実であること、  
革新の気概を持って新たな挑戦を繰り返していくことが、“ものづくり”の会社としての原点です。

“すべては「至誠」に始まり「創造」につながる”

私たちリンテックの変わらぬ姿勢であり、持続的成長を支える原動力です。

## LINTEC WAY 社是を支える大切な価値観

### 至誠を育む5つの心得

- 1 誠実であり続ける
- 2 真心は通じる
- 3 喜びをつくろう
- 4 与える人になる
- 5 仲間と家族を大切にする

### 創造を育む5つの心得

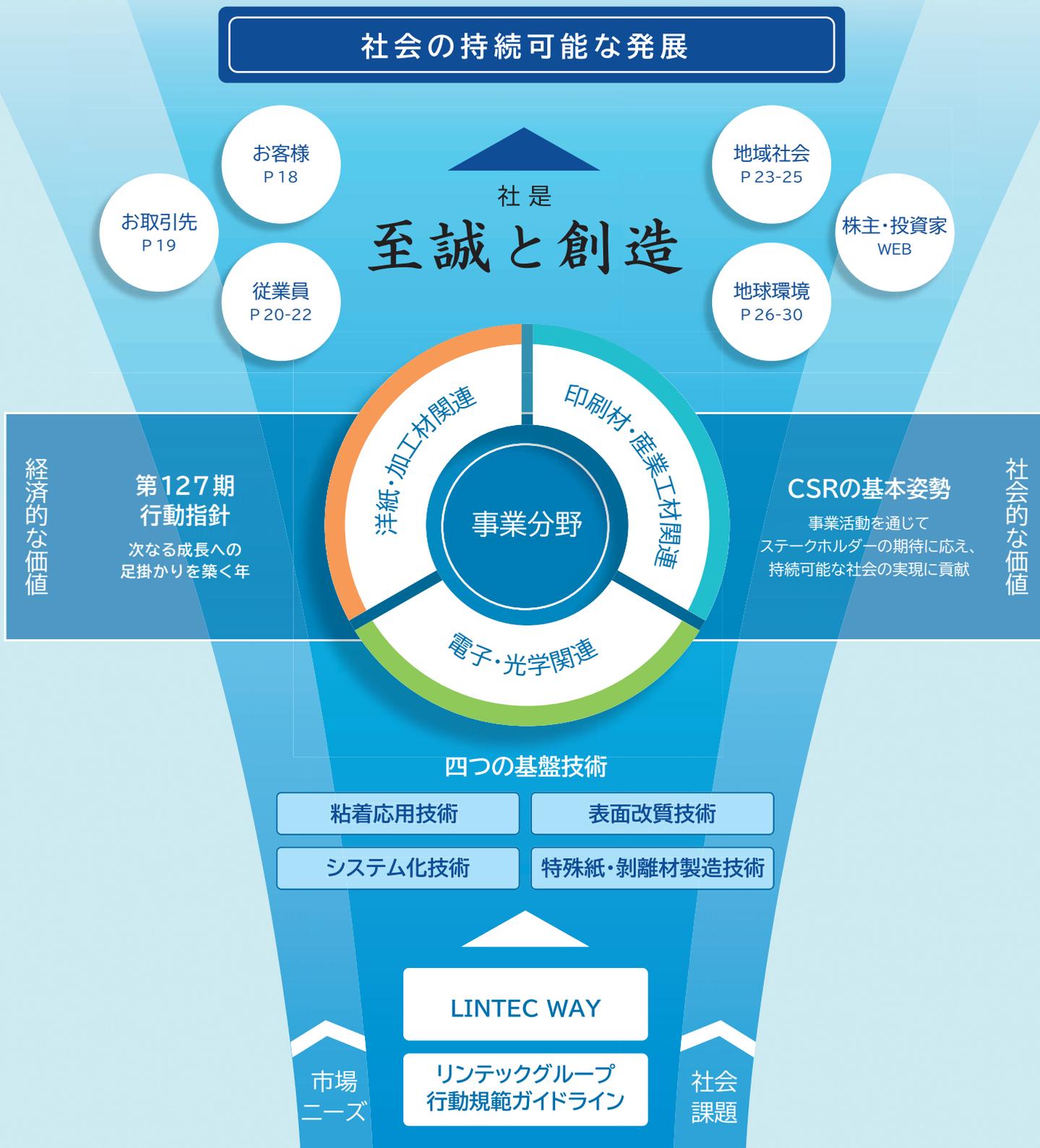
- 1 成功するまで粘る
- 2 ユニークを誇ろう
- 3 変化をしなやかにとらえる
- 4 地球視点で考える
- 5 あらゆる可能性とつながる

# リンテックグループとは

リンテックグループは社是「至誠と創造」の実現に向け、「LINTEC WAY」「リンテックグループ行動規範ガイドライン」を基本に四つの基盤技術を進化させ、新たな価値を生み出しています。

2020年度は「次なる成長への足掛かりを築く年」を行動指針として

「経済的な価値」と「社会的な価値」の両面での取り組みを通じて、社会の持続可能な発展を目指します。



# INDEX・編集方針

TOP MESSAGE

04

「至誠と創造」を根幹としたCSR活動を推進し、  
全従業員の力を一つにして、  
さらなる一步を踏み出していきます。

リンテックグループの社は「至誠と創造」を実現するために、当社に必要なこととは。  
2020年4月より社長に就任しました服部からのメッセージです。

特集

08

SDGs対談：  
社会と共に持続的な成長を遂げていくために

全社的な組織として2018年に発足したSDGs\*1委員会。歴代の推進担当役員である2人が、  
SDGs委員会が担う役割、そしてSDGsを切り口にしたイノベーションについて語り合いました。



- リンテックグループとは ..... 01
- INDEX・編集方針 ..... 02
- TOP MESSAGE ..... 04
- 特集：SDGs対談 ..... 08
- 非財務・財務ハイライト ..... 10
- リンテックの  
マテリアリティとSDGs ..... 12
- リンテックのCSR ..... 14
- バリューチェーンと  
ステークホルダー ..... 16

## 編集方針

リンテックグループでは、社は「至誠と創造」を根幹に  
さまざまなCSR活動を行っており、本レポートでは  
2019年度の活動を中心に報告しています。特集では、  
SDGsへの貢献と新しいビジネス創出を目的として  
発足したSDGs委員会の今後のビジョンについて対談  
形式で紹介しています。また、ステークホルダー\*2の  
声も紹介しています。本レポートは、ステークホルダー  
とリンテックグループ双方にとって、重要性の高い  
情報を選択し掲出しています。より詳細な情報はCSR  
サイトをご覧ください。

## 〔発行年月〕

前回発行年月：2019年8月 今回発行年月：2020年8月  
次回発行予定：2021年8月

## 〔参考としたガイドライン〕

GRI「サステナビリティ レポーティング スタンダード」  
環境省「環境報告ガイドライン（2012年版/2018年版）」  
環境省「環境会計ガイドライン（2005年版）」  
ISO26000（社会的責任に関するガイダンス規格）

リンテックグループでは、ステークホルダーとのより良い  
コミュニケーションを図るため、さまざまな媒体による  
情報発信に努めています。各媒体についてはP37の「CSR  
情報を開示する主なメディア」をご参照ください。

\*1 SDGs：Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）  
の略称。2015年に国連で採択され、17の目標と169のターゲットで構成。  
2030年を目標年に、国際社会共通の目標として、世界中の国やさまざまな  
主体が、より良い世界の実現に向けて議論を交わし、行動を起こしていくこと  
が期待されている。

\*2 ステークホルダー：組織体に対する利害関係者。具体的には、消費者（顧客）、  
従業員、株主、債権者、取引先、地域社会、行政機関など。

## 社会性報告

- お客様のために ..... 18
- お取引先との協働 ..... 19
- 人権とダイバーシティ ..... 20
- 関連データ ..... 21
- 安全防災 ..... 22
- コミュニティ参画 ..... 23
- グローバルCSR報告 ..... 24

## 環境報告

- 気候変動の緩和と適応 ..... 26
- マテリアルフロー ..... 27
- 廃棄物・用水使用量の削減 ..... 28
- 環境負荷物質の削減 ..... 29
- 関連データ ..... 30

## ガバナンス報告

- 至誠のために ..... 31
- 関連データ ..... 33

- リンテックグループ概要 ..... 34
- 第三者意見 ..... 36
- CSR情報を開示する主なメディア ..... 37



### 〔対象期間〕

原則2019年4月1日～2020年3月31日を対象としていますが、具体的な取り組み事例の一部には2020年7月までの内容を含んでいます。

なお、海外グループ会社15社の環境データについては、2019年1月1日～2019年12月31日を対象期間としています。

### 〔対象組織〕

#### ガバナンス 社会性報告

「リンテック」：リンテック(株)

「リンテックグループ」：リンテック(株)および国内・海外グループ会社

#### 環境報告

「リンテック」：リンテック(株)の本社、10生産拠点\*1、研究所、東京リンテック加工(株)

「リンテックおよび海外グループ会社15社」：上記および海外グループ会社15社\*2

「リンテックグループ」：リンテック(株)および国内・海外グループ会社

\*1 10生産拠点：吾妻、熊谷、伊奈、千葉、龍野、新宮、小松島、三島、土居、新居浜

\*2 海外グループ会社15社：琳得科(蘇州)科技有限公司、普林特科(天津)標籤有限公司、リンテック・スペシャリティー・フィルムズ(台湾)社、リンテック・アドバンス・テクノロジー(台湾)社、リンテック・コリア社、リンテック・スペシャリティー・フィルムズ(韓国)社、リンテック・インドネシア社、リンテック・インダストリーズ(マレーシア)社、リンテック・インダストリーズ(サラワク)社、リンテック・シンガポール社、リンテック・タイランド社、マディコ社、マックタック・アメリカ社、VDI社、リンテック・ヨーロッパ(UK)社

### 〔連結子会社の事業年度等に関する事項〕

連結子会社のうち、マックタック・アメリカ社、リンテック・タイランド社ほか36社の決算日は12月末日です。連結財務諸表の作成に当たっては、上記連結子会社38社の決算日と連結決算日との差異が3か月以内であるため、各社の事業年度の財務諸表を使用しており、連結決算日との間に生じた重要な取引については必要な調整を行っています。

### 〔報告内容の信頼性確保〕

★マークを表示したパフォーマンス指標は、SGSジャパン株式会社の第三者検証を受けています。第三者検証の結果、修正すべき重要な事項はありませんでした。

# TOP MESSAGE



「至誠と創造」を根幹とした  
CSR活動を推進し、  
全従業員を一つにして、  
さらなる一步を  
踏み出していきます。

## ご挨拶

社長に就任しました服部です。どうぞよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々にお悔やみを申し上げるとともに、罹患された方々に心よりお見舞い申し上げます。最前線で働く医療従事者の方々に心からの感謝と敬意を送ります。

私たちは今、これまで経験したことのない地球規模での困難に直面しています。リンテックにおいても、従業員やステークホルダーの安全を第一に、迅速な対応を進めてまいりました。しかし、この状況の明るい見通しは依然として立っていません。リンテックでは事業を継続すべく、引き続きあらゆるステークホルダーと協力して、この大きな課題へ立ち向かっていきます。

リンテックは、社是として掲げる「至誠と創造」の精神を根幹にして、社会のニーズに応えるさまざまな製品を提供し、事業領域を拡大しながらグローバル化を推進しています。私は当社で40年近く業務に携わり、

主に営業職を務めてきました。改めてその経験を振り返ると、いつでも先輩たちに支えられ、伸び伸びと業務に取り組んできたように思います。やがて責任ある立場でマネジメントに携わるようになってからも、社内外のさまざまな人たちの意見に耳を傾け、そこから自分なりの決断を導き出してきました。そして、最終的な決断の拠りどころとしたのが「至誠と創造」の精神です。

社長という重責を担うことになった現在も、このように私が大切にしてきた姿勢は決して変わることはありません。ステークホルダーの声に真摯に向き合い、さまざまな人たちに喜んでいただけるものづくりに取り組んでいきたいと考えています。その喜びを共に分かち合い、共に歩みながら、持続的な成長を目指していきます。

リンテック株式会社  
代表取締役社長 社長執行役員

服部 真

## Q

初めに2019年度および中期経営計画「LIP-2019」の業績についてお聞かせください。

中期経営計画「LIP-2019」については当初の目標から下振れする結果となりました。しかし、次なる成長に向けて貴重な経験を積むことができたと考えています。

当社では、イノベーションをさらに深化させ、新たな成長を目指すために、2017年度から3か年中期経営計画「LIP (LINTEC INNOVATION PLAN) -2019」に取り組んできました。2019年度は、その最終年度となる重要な時期でしたが、当初の計画目標から大きく下振れする結果となりました。米中貿易摩擦などによる世界経済の減速のほか、半導体・電子部品関連市場での生産調整が大きく影響しました。

2019年度は、当社の主力製品であるラベル用粘着製品におけるグローバルブランド「Livasta(リバスタ)\*1」を立ち上げ、国内外で販促活動を強化しました。また、植物由来のバイオマス粘着剤を使用した粘着製品のラ



インアップを充実させるなど、環境負荷の低減に貢献するものづくりに力を注ぎました。海外に目を向けると、アジアで順調に市場を拡大するとともに、北米ではマディコ社における事業の再構築、マックタック・アメリカ社での業務改善などに取り組みました。

中期経営計画「LIP-2019」においては目標未達という結果になりましたが、この3年間で振り返ると着実な成長を遂げているように思います。これらの貴重な蓄積を糧にし、また新たな気持ちで次なる成長を目指していきたいと考えています。

## Q

リンテックが担う社会的責任についてどのようにお考えですか？

社は「至誠と創造」を根幹に志を持った“ものづくり”を通じて世界の課題解決に取り組んでいきます。

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大を挙げるまでもなく、企業を取り巻くグローバルな環境は大きく変化しています。一方通行による大量消費の時代は過ぎ去り、持続可能な循環型へと社会が求める価値も変わりつつあります。

企業として社会的な責任を果たしていくために、当社はこれまでもグローバルな視点に立ったCSR活動を継続的に推進しており、中期経営計画「LIP-2019」

においても「持続可能な社会の実現に向けた取り組み」を重点テーマの一つとして掲げてきました。当社のCSR活動は、社是として掲げる「至誠と創造」の精神に基づくものであり、その実践としての活動は国内ばかりでなく海外にも広がっています。インドネシアで地域の人たちと協力して行っているマングローブの植樹活動\*2もその一つです。2016年から毎年行っており、私自身も現地に足を運び参加しています。

さらに、これらの活動にSDGsの視点を取り込み、2018年2月に私自身が初代の推進担当役員となった「SDGs委員会」を立ち上げるなど、SDGsを経営や事業に組み込むための活動も積極的に進めています。この「SDGs委員会」は、部門や肩書きなどに捉われ

\*1 Livasta(リバスタ)：2019年7月1日に立ち上げたラベル素材のグローバルブランド。ブランド名称には LINTEC、Value(価値)、Stick(粘着素材)、Advance(進化)という言葉を取り込んでいる。

\*2 マングローブの植樹活動：リンテック・インドネシア社で2016年から行っている活動。営業拠点であるリンテック・ジャカルタ社や地域住民、地元の水産大学の皆さんと協力しながら植樹を行い、定期的な育成観測によりその生長を見守る取り組み。

ない全社横断的な組織であり、自由闊達な議論から数多くのアイデアが生まれています。一方、各事業部門では、これまで蓄積してきた技術や製品をベースに、それぞれの事業に根ざした取り組みが始まっています。今後は、このような両面からのアプローチを融合させて、SDGsをビジネスチャンスとして捉えた製品開発など、より積極的な活動を進めていきたいと考えています。SDGsに関わるテーマの中には、例えば製造プロセスにおける無溶剤化のように、当社にとってハードルが高いもの

もありますが、目をそらすのではなく、目標に向かって一步一步活動を積み重ねていかなければなりません。

SDGsという社会課題に取り組むことは、事業に取り組む全ての企業にとっての資質と考えています。社は「至誠と創造」を根幹にした当社のCSR活動にも共通しており、この精神を全従業員と改めて認識し、社会的課題の解決に貢献することで世界の人々に喜んでいただけるような当社らしい活動を進めていきます。

Q

イノベーションを生み出していくために、  
どのような取り組みを進めていくのでしょうか？

イノベーションを生み出していくためには最大限に能力を発揮できる環境が欠かせません。柔軟で、かつ積極性を育む組織づくりに力を注いでいきます。

社会の変化に速やかに対応してイノベーションを生み出していくためには、従業員一人ひとりが最大限に能力を発揮できる環境づくりが欠かせません。柔軟であること、そして積極的であること、私はこれらの姿勢がとても重要であると考えています。

その意味では、部門などの枠組みを超えて多様な人

材を結集させた「SDGs委員会」は、一つのヒントになるのではないのでしょうか。目指すべきゴールに応じて個性豊かな人材が連携し、その多様性をパワーにして新しい価値を生み出していく。そんな組織づくりを進めていきたいと考えています。

多様な人材が生き生きと活躍できるダイバーシティ<sup>\*3</sup>の推進や働き方改革にも継続して取り組んでいきます。2020年11月に移転予定の文京春日オフィスでは、ペーパーレス化といった取り組みに加え、柔軟な働き方を実現するフリーアドレス<sup>\*4</sup>も導入します。今後は、イノベーションを生み出すための土壌づくりにも力を注いでいきます。



#### [プロフィール]

1980年入社。主に営業職を歩み、アドバンスマテリアルズ事業部門の部門長などを経て、2017年から6事業部門を取りまとめる事業統括本部長を務めた。座右の銘は、「当たり前のことを、当たり前のように」。常に感謝の気持ちを忘れず、謙虚な姿勢で努力を続けていくことを信条としている。趣味は、「あまり上手ではない」(本人談)ゴルフと、毎朝欠かさず続けているウォーキング。

\*3 ダイバーシティ：立場や価値観などの異なる人同士が集団の中に存在すること。人や集団間に存在する多様な個性を尊重することで、適材適所での各能力の発揮や多様な視点での問題解決、独創的なアイデアの創出などを促進する。

\*4 フリーアドレス：従業員が固定の席を持たず、自由に席を選んで仕事をするワークスタイル。コスト削減やセキュリティ向上のメリットのほか、コミュニケーションの活性化などの効果が期待される。

## 第127期行動指針

## 「次なる成長への足掛かりを築く年」

- グループ全社員は、未来へつながる新たな価値をつくるため、飽くなきチャレンジを続けよう
- 営業力・製造力・開発力に磨きをかけ、お客様が真に求めるものを追求しよう
- SDGsへの取り組みを強化し、さまざまな社会的課題を解決する企業になろう

## Q 2020年度およびその先の未来を見据えた長期的なビジョンについてお聞かせください。

社会の動きへ柔軟に対応しながらぶれることなく持続的な成長を果たしていくために2030年を目標とした長期ビジョンの策定を進めています。

グローバルな変化とともに社会が求める価値は多様化し、その動きはこれからさらにスピードを増していくでしょう。このような環境において企業が持続的な成長

## Q 最後にステークホルダーへのメッセージをお願いいたします。

ステークホルダーと喜びを分かち合える企業を目指してみんなの知恵を集め、みんなと一緒にイノベーションを生み出していきます。

当社の会議などでよく耳にする言葉に「みんなが喜ぶ製品をつくろう」というものがあります。私自身、好きな言葉でしばしば口にします。この言葉のみんなには、従業員や家族、取引先のお客様やその先の消費者、

を果たしていくためには、その変化に先駆けて柔軟に戦略を組み立て、速やかに実行していくことが重要です。そして、その方向性がぶれないように、全従業員で共有できる長期的なゴールが必要となります。また、新しい事業分野を切り拓くような革新的な技術や製品を創造するためにも、足元ばかりに捉われない長期的な視点が必要です。

当社では、長期ビジョンの策定に取り組んでいます。SDGsの最終年でもある2030年を目標としたもので、当社グループの10年後のあるべき姿をしっかりと描き、それをビジョンとして形づくるために、社内で議論を進めているところです。また、これらの議論を通じて浮かび上がってきた具体的な施策を取りまとめ、次期中期経営計画を策定していきます。

なお、2020年度はこれらの助走期間として、「次なる成長への足掛かりを築く年」という行動指針のもと、単年度計画としました。2021年度から3か年ごとの中期経営計画を推進し、これらをマイルストーンにして長期ビジョンの達成に取り組んでいきます。

包装用ガムテープに始まり、粘着紙・粘着フィルム、そして半導体関連製品など、これまでの当社の歩みを振り返ると、新しい時代を切り拓く技術や製品が開発されてきました。これからの10年間はまさにそのような期間にしていきたいと考えています。未来を見据えた長期ビジョンの下、イノベーションを推進していきます。

サプライヤー、株主の方々などさまざまな人たちが含まれます。地球上に暮らす全ての人たちと言っても良いかもしれません。また、喜ぶというワードにも実に多様な価値が含まれているように感じます。私は、この言葉にはSDGsの考え方に根底で通じるものがあると思っています。

このように世界の誰にも喜んでいただけるような、社会にとって存在価値のあるグローバルな企業を目標にし、みんなの知恵を集め、みんなと一緒にイノベーションを生み出していきたいと考えています。

## SDGsを切り口に 新しいビジネスを創出していく

**海谷** SDGs委員会が発足してから2年が過ぎました。服部社長はこれまでの2年間、SDGs委員会の推進担当役員を務めてこられて、この委員会の特徴はどのようなところにあると感じていましたか？

**服部** SDGs委員会は、社内の枠組みを跳び越えて、幅広い部署からSDGsに強い想いを持つメンバーたちが集まっています。当社の組織では、これまでに例のなかった存在だと思っています。また、大学の研究者にヒアリングをしたり、他業界の施設を見学したり、社外にもどんどん飛び出して第三者の視点を取り入れ、今までの当社にはないビジネスモデルを描こうとしている姿勢も新鮮だと感じています。

**海谷** 最近では社内での注目度も高まり、2019年度に入れ替わった新しいメンバーには、自分から手をあげて参加した若手も多くいると聞いています。これまで東日本での活動が中心でしたが、新しく西日本でSDGs委員会の分科会も立ち上がり、活動がさらに広がりました。

**服部** SDGsに貢献していくためには、それぞれの



私がSDGs委員会に期待しているのは、  
イノベーションのきっかけづくりです。

リンテック株式会社  
代表取締役社長 社長執行役員

## 服部 真

地域に根ざした活動も重要になります。今後は海外のグループ会社にも広げて、グローバルな企業グループとして活動を進めていきたいと考えています。

特集

SDGs対談

# 社会と共に 持続的な成長を遂げていくために SDGsを起点としたリンテックの取り組み

2018年2月に発足したSDGs委員会は、SDGsへの貢献を推進するとともに新しいビジネスを創出することを目的にした全社的な組織です。歴代の推進担当役員である2人が、SDGs委員会が担う役割、そしてSDGsを切り口にしたイノベーションについて語り合いました。



足元ばかりを見ず、長期的かつ柔軟な姿勢でSDGsに貢献する活動に取り組んでいきます。

リンテック株式会社  
取締役常務執行役員  
現SDGs委員会推進担当役員

## 海谷 健司

### イノベーションを生み出すのは、「なぜ?」という発想とやり抜く力

**海谷** 当社では、中期経営計画にLIP (LINTEC INNOVATION PLAN)という名称をずっとつけてきました。しかし、そのイノベーションがなかなか起こりにくい会社になっているのではないかと心配しています。

**服部** それは私も感じています。長年にわたって培ってきた技術や製品にとらわれすぎて、新しいチャレンジが生まれにくくなっている。技術開発や製品企画ばかりでなく、仕事のさまざまな場面で自分たちの可能性を狭めてしまっているのではないのでしょうか。従業員の皆さんには、そのことに気付いてほしいと思っています。

**海谷** 実は可能性を秘めている技術なのに、新しい発想が出ないために、埋もれてしまっているものも多いように思います。イノベーションには外部から技術や発想を取り込む手法もありますが、それではなかなか社内に根付かせるのが難しくなります。社内に埋もれている技術を発掘して、新しい価値を見出す手法を

大切にすべきです。そのような活動を継続的に積み重ねていくことが重要だと考えています。その新しい切り口となるのが、SDGsへの貢献だと思っています。

**服部** そのとおりですね。私がSDGs委員会に期待しているのも、そのイノベーションのきっかけづくりです。

### 10年後の“あるべき姿”を見つめ、SDGsへ貢献する活動を継続していく

**服部** 海谷本部長は、2020年度からSDGs委員会の推進担当役員を引き継ぎました。今後、どのように活動を進めていきたいと考えていますか？

**海谷** そうですね。私は、SDGsへの貢献は企業にとって社会への本気度のようなものが試されるテーマであると感じています。当社では、服部社長が「SDGsを経営に組み込んでいく」と明確に表明されていますから、その想いを揺らぐことなく受け継いでいきたいと思っています。

**服部** その言葉は、SDGs委員会が発足した時から推進担当役員としてずっと言い続けてきました。今後も変わることはありません。

**海谷** 今、当社では、2030年を見据えた長期ビジョンの策定を進めており、これからは10年後の目標に向かって、3か年ごとの中期経営計画を柔軟に推進していくことになります。私は、SDGsも同じように長期的かつ柔軟に取り組んでいくべきものだと考えています。あまり前のめりになってしまうと、足元ばかりを見た活動になってしまいます。本来、SDGsはそのような取り組みではないと思うのです。

**服部** そのとおりですね。従業員の皆さんには、10年後の企業としての“あるべき姿”を常に意識して日々の活動に向き合ってほしいと思います。そのような姿勢から、イノベーションが生み出されていくのです。

CSRレポートでは掲載しきれなかった「SDGs対談」全文はWebでご覧いただけます。  
[www.lintec.co.jp/csr/special](http://www.lintec.co.jp/csr/special)

# 非財務・財務ハイライト



## 社会(単体)

コミュニティ支援費用

872万円



CSR調達の  
お取引先アンケート  
回答率

93.9%



アンケートを  
実施  
114社

107社  
から回答

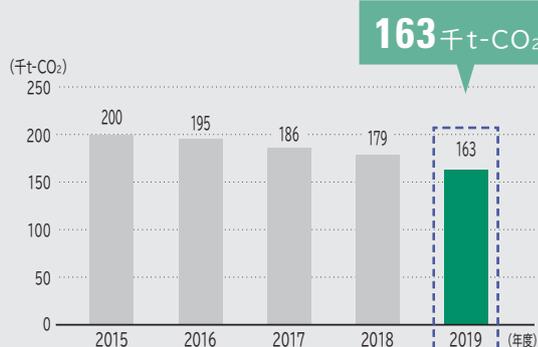
原材料のお取引先 約500社



## 環境

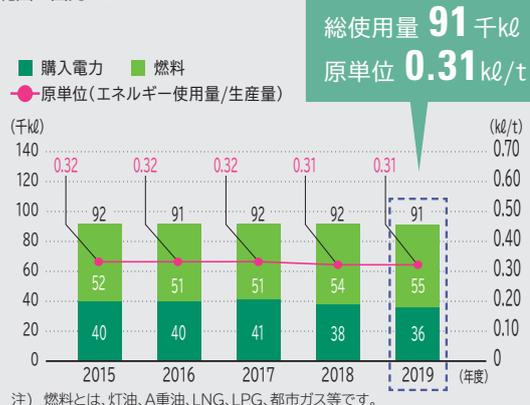
CO<sub>2</sub>排出量

対象範囲：リンテック(株)の本社、10生産拠点\*1、研究所、  
東京リンテック加工(株)



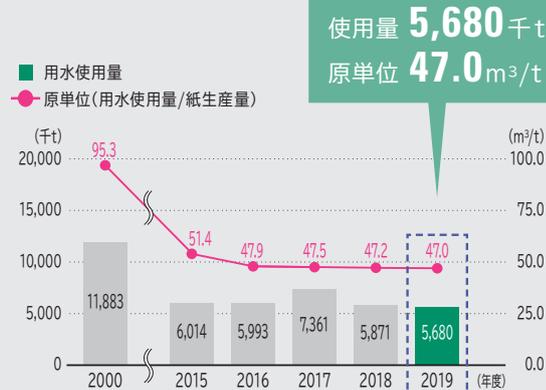
エネルギー総使用量(原単位換算)

対象範囲：国内リンテックグループ\*2



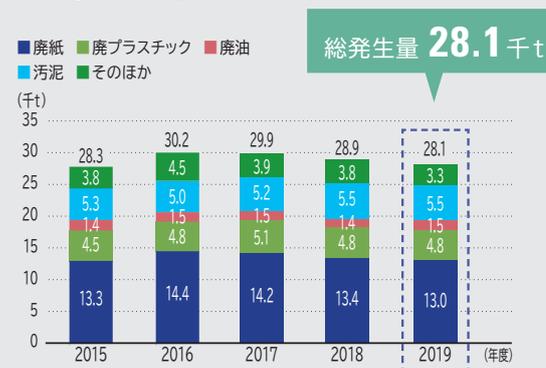
用水使用量

対象範囲：熊谷工場、三島工場



廃棄物発生量

対象範囲：リンテック(株)の本社、10生産拠点、研究所、  
東京リンテック加工(株)



\* 1 10生産拠点：→P 03に記載。

\* 2 国内リンテックグループ：リンテック(株)およびリンテック(株)の営業拠点、  
東京リンテック加工(株)、プリンテック(株)、リンテックサービス(株)、  
リンテックコマース(株)。



## 人材

従業員数(連結)

# 4,948人



有給休暇取得率(単体)

# 66.5%

6年間連続で上昇



階層別研修 参加人数(単体/延べ)

# 2,299人

(延べ)



## 財務(連結)

\* 連結子会社の事業年度等に関する事項はP 03に記載。

売上高

# 2,407億円

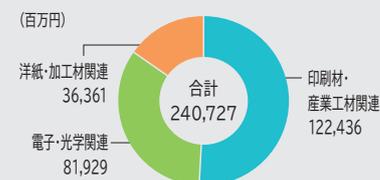


営業利益

# 154億円

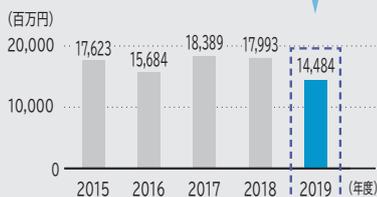


セグメント別売上高(2019年度)



経常利益

# 145億円



親会社株主に帰属する  
当期純利益

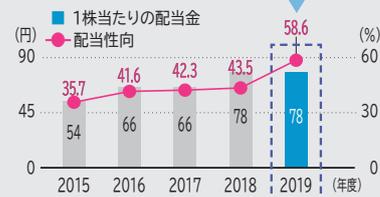
# 96億円



1株当たりの  
配当金

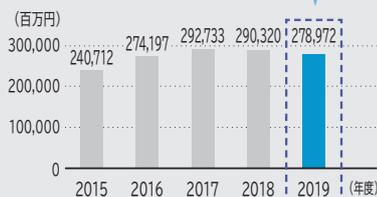
# 1株当たりの配当金 78円

配当性向 58.6%

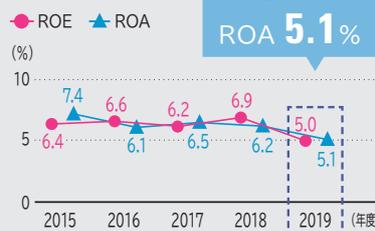


総資産

# 2,790億円



ROE\*3/ROA\*4



研究開発費

# 79億円



\* 3 ROE : Return On Equity(自己資本利益率)の略称。自己資本(純資産)に対してどれだけの利益が生み出されたのかを示す財務分析の指標。

\* 4 ROA : Return On Assets(総資産利益率)の略称。総資産に対してどれだけの利益が生み出されたのかを示す財務分析の指標。

# リンテックのマテリアリティ(重点課題)とSDGs

「マテリアリティ」とは、幅広いCSR活動の中から企業が注力すべき課題を特定したものです。リンテックグループでは2014年にマテリアリティを特定しましたが、変化し続ける社会課題を踏まえ、また日々ステークホルダーとの対話を重ねながら、マテリアリティのテーマ

の見直しを進めています。

新しいマテリアリティにはSDGsの視点も盛り込み、現在は見直しプロセスのSTEP2まで進めています。今後はさらに主要な評価指標(KPI)\*1も更新していきます。

※ 実績の対象組織：

[A]リンテック(株)／[B]リンテックグループ／[C]リンテック(株)、東京リンテック加工(株)／[D]リンテック(株)本社、10生産拠点、研究所／[E]リンテック(株)の生産拠点(伊奈を除く)、研究所

マテリアリティ		対象範囲(パウンダリー)		関連するSDGs	取り組み
		社内	社外		
組織統治	グローバルガバナンスの運営	○	○	 	グローバルガバナンス体制の強化
環境	原材料の効率的な利用	○	○	 	リンテック原材料調達基本方針に基づく、環境負荷低減に配慮した調達活動
	大気への排出物の削減	○	○	  	環境中期目標に基づく、大気への排出物の削減
	製品およびサービスを通じた環境面での貢献	○	○	 	LCA*2を考慮した環境配慮製品の開発・普及
	環境面でのコンプライアンス対応	○	○		環境マネジメントシステムによる、環境面でのコンプライアンス対応と管理
労働慣行	労働安全衛生への対応	○	○	 	労働安全衛生マネジメントシステムに準拠し、労働安全確保のための活動を実施
	職場におけるダイバーシティの実現	○	-	 	従業員の多様性を尊重し、働きがいのある職場の整備
	従業員満足の向上	○	-		従業員が意欲を持って働ける職場環境の構築
社会	人権デューデリジェンス*3の実施	○	○		サプライチェーン全体での人権への配慮およびリスクの把握
	社会面でのコンプライアンスへの対応	○	○		全社でのコンプライアンスの浸透と徹底
	製品面でのコンプライアンスへの対応	○	○		品質マネジメントシステムによる事故の撲滅・予防
	持続可能な消費への貢献	○	○		ステークホルダーへ、環境配慮製品の効果を周知・浸透
	地域コミュニティとの共生を実現	○	○		良き企業市民として、地域社会への社会貢献活動の実施
事業面での貢献	新興国における地産地消のビジネスモデルの構築	○	○	   	現地調達推進と社会的課題解決を目指した製品の研究開発
	新規分野への進出	○	○	現在検討中	

\*1 主要な評価指標(KPI)：目的に対する達成具合を定量的に計るために設定された組織の戦略に関わる重要な指標。

\*2 LCA：Life Cycle Assessmentの略称。製品のライフサイクル全体を通じて投入されるエネルギーや水、原材料の量や排出されるCO<sub>2</sub>、有害化学物質などを算出し、環境への影響を総合的に評価する手法。

## SDGs(持続可能な開発目標)とは

Sustainable Development Goalsの略称。2015年に国連で採択され、国際社会の支援を必要とする課題に対して、2016年1月1日よりスタートし、2030年までに達成するという期限付きの17の目標と169のターゲットが掲げられている。問題解決のための創造性とイノベーションを発揮することが求められており、政府や市民社会、民間セクターその他、全てのステークホルダーが実現に貢献することを期待されている。



主要な評価指標 (KPI)	実績*	関連ページ
(1)国内外の相談窓口の活用 (2)各国の法令と自社基準に照らし合わせた、内部監査部門による監査結果	(1)3件[B] (2)重大な指摘事項なし[B]	P 33 P 31
有機溶剤の使用量	18千t[A]	CSR サイト
(1)国内の事業活動におけるCO <sub>2</sub> 排出量 (2)国内の事業活動におけるVOC**4排出量	(1)163千t[C] (2)869t[E]	P 27 P 29
環境配慮製品の開発件数	59件[A]	P 26
重大環境法令違反件数(罰金/制裁措置)	0件[D]	CSR サイト
(1)労働/休業災害発生件数 (2)完全無災害	(1)4件[C] (2)5事業所*5が1年間無災害[C]	P 22 CSR サイト
(1)女性の管理職比率 (2)育児休業後の復帰率	(1)13%[B] (2)100%[A]	P 20 CSR サイト
新卒3年以内の離職率	12.6%[A]	P 21
サプライヤーアンケート調査の回答件数	107社[A]	P 19
役員・管理職を対象としたコンプライアンスアンケート調査回答率	リスク洗い出し調査回答率 82.0%[B] ※ リスク洗い出し調査を実施したため、コンプライアンスアンケート調査は未実施	P 32
重大製品事故報告件数	0件[C]	P 18
国内外展示会への出展回数(活動評価)	47回[A]	CSR サイト
(1)工場見学延べ受け入れ人数 (2)社会貢献活動の実施	(1)800人[C] (2)→P 23に記載[B]	P 23
海外拠点での現地原材料登録システムの構築(活動評価)	グローバルでの原材料情報を管理するための検索システム開発中[B]	P 19
特許出願数(活動評価)	354件[A]	CSR サイト

## マテリアリティ 見直しのプロセス

STEP

1

### 社会要請の抽出

SDGsやGRIスタンダード、国連グローバル・コンパクト、ISO26000といったさまざまな国際的ガイドラインやフレームワークの変化に加え、ESG\*\*6評価機関から重要なESGテーマを洗い出し、絞り込みを行いました。

STEP

2

### 社内エンゲージメント (優先順位づけ)

研究開発本部や事業開発室等の社内組織と仮説について検討し、重要性の判断を行います。

STEP

3

### 重点テーマの特定

STEP1、2の結果を踏まえて重点テーマを特定し、最高意思決定者である社長による評価・承認を得ます。

STEP

4

### 主要な評価指標の 再設定

特定したマテリアリティを踏まえ、活動の評価指標を設定し、運用に向けて進めていきます。

\*3 人権デューデリジエンス：組織が法を遵守するだけでなく、人権侵害の危険性を回避するために対処するプロセス(ISO26000 6.3.3人権に関する課題1)をいう。  
\*4 VOC：Volatile Organic Compoundsの略称。大気中で気体状となる有機化合物の総称。

\*5 5事業所：熊谷工場、研究所、千葉工場、新宮事業所、小松島工場。

\*6 ESG：Environment(環境)、Social(社会)、Governance(ガバナンス)の3要素の総称で、企業が持続的に成長できるか否かを判断する指標として用いられる。

# リンテックのCSR

リンテックグループの事業は、多くのステークホルダーに支えられて成り立っています。ステークホルダーの期待に応え、信頼される企業であり続けるために、社は「至誠と創造」を根幹に置き、社是を支える大切な価値観「LINTEC WAY」や「CSRの基本姿勢」「行動規範ガイドライン」にのっとり、全従業員がCSR活動を積極的に推進しています。2019年度を最終年度とした中期経営計画「LIP(LINTEC INNOVATION PLAN)-2019」においても「持続可能な社会の実現に向けた取り組み」を重点テーマの一つとして掲げ、環境負荷低減に貢献する

ものづくりなど、次なる成長に向けてさまざまなCSR活動を進めてきました。これらの活動にSDGsの視点を取り込み、社会的課題の解決に貢献することで、世界の人々に喜んでいただける活動を目指しています。また、リンテックグループでは、マテリアリティを特定するとともに、主要な評価指標(KPI)\*1を設定し、PDCAサイクルを効率的に回しながら戦略的なCSR活動を行っています。さらに、国連グローバル・コンパクトに参加しているほか、ISO26000を参考にするなど、国際的な規範に基づいた事業活動、CSR活動を推進しています。

## ■ ステークホルダーコミュニケーション

リンテックでは、ステークホルダーと積極的な対話を行い、社会の期待に応える取り組みを行っています。

### ▶ SDGs委員会 社外アドバイザーを担当して

リンテックのSDGs委員会を一言で表現するなら、サステナブルイノベーション コミュニティと呼べるかと思います。ことさら横文字を使う必要はないのですが、和訳するよりこの方がしっくりくと私は感じています。この委員会の特徴は、部署や役職、ジェンダーの壁を越え、多様な人材が集結していること、さらに社内外のさまざまなステークホル

ダーと積極的に対話を重ね、多彩な価値の内在化に取り組んでいることではないでしょうか。イノベーションとは、つまるところ「異質なものの組み合わせ」にほかなりません。

委員会は、「多様性」と「パートナーシップ」とを基軸として、1年間という限られた時間の中で、「創造」に挑戦する価値の孵卵器\*2なのです。短い期間の中で委員一人ひとりの成長には目を見張るものがあります。委員会を卒業して、各々の職場に戻ったとき、CSRやSDGsの本質とは何かを伝道者として啓蒙し、共有されていくことに期待しています。

今年は本社圏に加え、西日本分科会も立ち上がります。今後はさらに海外への展開を迅速に行い、SDGsへの活動をグローバルな全社活動へと広げていくことが課題と考えられます。SDGsが掲げるトランスフォーメーション(大転換)のためには、イノベーションの集積が不可欠です。しかし現実には多くの企業・組織がイノベーションを生み出せずに、苦慮しています。今後SDGs委員会がこの壁を突き破り、CSRこそがイノベーションの原動力になることを実証されるのを切に願います。そのことが、社会的課題の解決へとつながっていくのです。



SDGs委員会のようす



サステナブル経営総合研究所 代表  
多田 博之氏

\*1 主要な評価指標(KPI)：→P 12に記載。

\*2 孵卵器：卵を人工孵化させるための装置。ここでは「価値を見だし、育てていく場」という意味。

## CSR推進体制

社長直轄のCSR推進室が、全社での高い倫理観の育成とCSRの浸透、および各委員会の活動支援を行っています。

委員会は組織横断的メンバーで構成され、各委員会に推進担当役員を配することで、経営の立場から責任を持って活動をリードしています。



## 国連グローバル・コンパクト

リンテックグループは2011年4月から「国連グローバル・コンパクト」に参加しています。下記10原則に基づいた事業活動を行い、社会の持続的発展に貢献していきます。

- 人権
  - 原則1:人権擁護の支持と尊重
  - 原則2:人権侵害への非加担
- 労働基準
  - 原則3:結社の自由と団体交渉権の承認
  - 原則4:強制労働の排除
  - 原則5:児童労働の実効的な廃止
  - 原則6:雇用と職業の差別撤廃
- 環境
  - 原則7:環境問題の予防的アプローチ
  - 原則8:環境に対する責任のイニシアティブ
  - 原則9:環境にやさしい技術の開発と普及
- 腐敗防止
  - 原則10:強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取組み

## ▶ ステークホルダーとのコミュニケーションを通して

リンテックでは、地域の方々と交流する機会を大切にしています。2019年度も「リンテック ふれあいコンサート」や「東京ドーム野球観戦」などのイベントを開催し、東京ドーム野球観戦には、板橋区在住の障がい者の方々とその介助者、少年野球チームの子供たちとご家族など616人に参加いただきました。本イベントでは、当社の従業員が障がい者の方々の移動をサポートする機会もあり、丁寧なご案内や会話を通して快適にイベントを楽しんでいただけるよう努めています。ご招待者のお見送りの際には「ありがとう、楽しかった」とお声掛けいただき、「次回もぜひ参加したい」という手書きのお礼状も頂戴しました。

そのような方々のためにもご意見やご感想を基に工夫を重ねていきたいと考えています。



東京ドーム野球観戦のようす



経理部 経理課  
星野 晶



フェイスシールド



マディコ社 人事課  
Kelli Houdek  
(ケリー・ホーデク)

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、マスク1,000組、消毒液40ボトルなどを、マディコ社が属する米国フロリダ州ピネラス郡に寄付するとともに、お取引先にも連絡を取り、支援を呼び掛けました。さらに、従業員の家族で新型コロナウイルスの影響により経済的打撃を受けた方々を優先的に雇用して量産したフェイスシールド15万組以上を郡に寄付しました。この取り組みに対し、地域の緊急救命隊より「地域の医療従事者に個人用防具を提供していただき大変感謝しています」と記されたお礼状を頂きました。

今回の支援活動をはじめ、当社の取り組みにより、地域の方々の安全を守り、生活に貢献できること。そして、地域との絆が生まれ、強くなっていくことに大きな喜びを感じています。

# バリューチェーンとステークホルダー

## リンテックのバリューチェーンの考え方

リンテックグループの事業活動は、バリューチェーンのそれぞれにおいてインパクトを与えています。各フェーズで、SDGsを意識した業務の見直しや改善を推進するとともに、部門を超えた連携を図り、持続可能な社会の実現を目指しています。

また、ステークホルダーと対話の場を設け、業務に反映しています。



## VOICE

### 原材料調達

海外では製品のライフサイクルが非常に短いケースが多く、お客様のニーズをいち早く把握し、国内以上のスピード感で、原材料の調達、評価を行う必要があります。琳得科(蘇州)有限公司では、現地調達比率を高めることで、短納期、適正コストの製品づくりに努めています。



琳得科(蘇州)有限公司  
資材課  
室井 孝司

### 事業に関わる社会的な課題



### 原材料調達

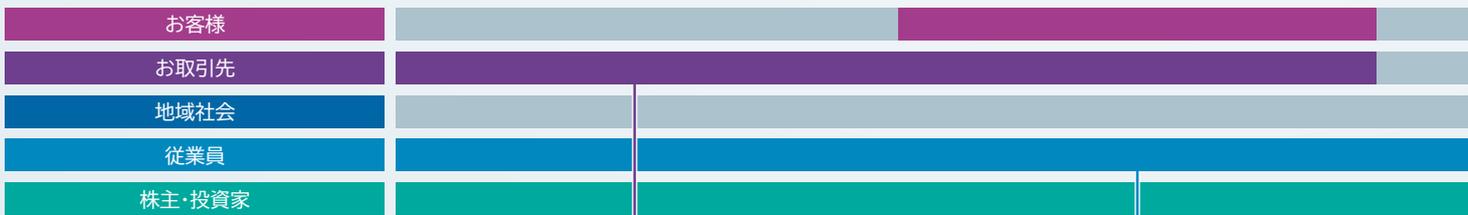


お取引先との共存共栄を目指し、CSR調達を推進

### 研究開発



研究開発本部を中心に社会に貢献する革新的新製品の創出



### リンテックの取り組みハイライト

原材料のお取引先数

約 **500** 社

主要取引先114社からのアンケート回答率

**93.9%**

お客様からの期待に応える積極的な研究開発  
研究開発費用

**79** 億円

## VOICE

### 研究開発

使用から廃棄までを考慮した材料設計を行い、お客様にとって価値の高い製品を提供することを心掛けています。一方、製品の安定生産に向け、製造部門と協力しながら原材料の調整や改良も推進しています。こうした取り組みの積み重ねが、顧客満足度の向上にもつながると考えています。



研究所 製品研究部  
粘着材料研究室  
鈴木 伸哉

#### 事業に関わる社会的な課題



## VOICE

### 製造

各製造工程の従業員と情報共有を徹底するとともに、各設備の点検・メンテナンスを定期的を実施し、製品の品質確保と生産性向上に努めています。また、製造現場の一人ひとりへの声掛けや、工場全体で実施する防災訓練などを通じて、従業員が安全で健康に働ける環境整備にも力を注いでいます。



吾妻工場  
第2製造課1係  
原田 均

#### 事業に関わる社会的な課題



#### 製造



国内外で生産効率の向上と環境負荷低減、新製品の量産化を推進

#### 物流



モーダルシフト\*1による環境負荷低減や製品の安定供給を実現

#### 販売・使用



お客様に満足いただける高品質な“ものづくり”による安心と信頼の提供

#### 廃棄・リサイクル



廃棄物の削減と有効利用の促進

各事業所にてさまざまな社会貢献活動を実施  
社会貢献活動での年間拠出額  
**872**万円

物流におけるCO<sub>2</sub>排出量  
2018年度比 **4.3**%削減  
エネルギー使用量原単位 約 **0.7**%改善

品質管理の徹底により品質事故件数比率  
2010年(基準年)から **63**%削減

最終埋立比率 **0.3**%

\*1 モーダルシフト：旅客や貨物の幹線輸送を、大量輸送が可能な鉄道や船舶輸送に切り替えることで、CO<sub>2</sub>排出量削減を図る取り組み。

# お客様のために

WEB より詳しい情報はCSRサイトへ

リンテック お客様のために

検索



リンテックグループでは、“「ものづくり」の原点に立ち、「品質」「環境」「安全」を基本とした製品開発・製造・販売に努め、あらゆるステークホルダーから信頼される事業活動を徹底する”という品質方針を掲げています。また、お客様の期待に応えるため、製品やサービスの付加価値向上に努めています。

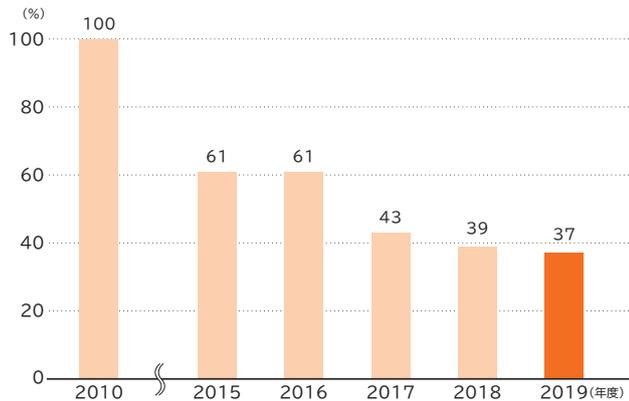
項目 (マテリアリティ)	主要な評価指標 (KPI)	実績*
新規分野への進出	特許出願数 (活動評価)	354件 [A]
製品面でのコンプライアンス対応	重大製品事故報告件数	0件 [C]
持続可能な消費への貢献	国内外展示会への出展回数 (活動評価)	47回 [A]

実績の対象組織：[A]リンテック(株)／[C]リンテック(株)、東京リンテック加工(株)

## 品質保証体制

リンテックグループでは、ISO9001\*1に基づく品質保証体制を構築しています。国内グループは、6事業部門をQMS統合しています。海外グループでは、11拠点で品質保証体制を構築し運用しています。

### 品質事故件数比率



注) 1. リンテック(株)および東京リンテック加工(株)、湘南リンテック加工(株)における品質事故件数比率です。  
2. 2010年度の件数を100%とした比率です。

## 安全衛生インパクトの評価

リンテックグループでは、RoHS指令\*2および労働安全衛生法等の基準に従って原材料を選択し、製品の製造工程で混入がないように注意を払っています。2019年度の事業活動において、これらの規制値を逸脱した事例はありませんでした。

## 製品の情報開示

リンテックグループでは、製品を安全・安心にご使用いただくため、製品情報をWEBサイトや書面でお客様へお知らせしています。製品の品質については、JIS規格やその他公的規格、自社独自の測定方法により確認・評価しています。

## ワンストップ開発の推進

研究開発本部では、製品設計と量産化検討を同時進行させる「ワンストップ開発」を推進しています。2019年度は、バイオマス粘着剤やリサイクル材料の開発にも取り組み、環境配慮製品のラインアップ強化を可能にしました。

## 私のネクストステージ

今後もお客様に喜んでいただくため、さらなるシステムの構築や品質向上を目指し、従業員一体となってさまざまな課題の改善・解決に取り組んでいきます。



リンテック・インドネシア社  
品質保証課

Eva Liyana  
(エファ・リヤナ)

## 私のネクストステージ

これからは新製品の早期立ち上げだけでなく、新規塗工方式の導入検討も含めて、量産化テスト塗工設備を活用していきます。



研究所  
製品研究部 粘着材料研究室

朝稲 翔平

\*1 ISO9001：品質マネジメントシステムの国際標準規格。  
\*2 RoHS指令：EUでの電子・電気機器における特定有害物質の使用制限に関する指令。

\*3 人権デューデリジェンス：→P.13に記載。  
\*4 REACH規則：EUの化学物質規制で、化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規制の略称。EU諸国へ化学物質を年間1t以上輸出する場合には登録が必要。また、製品中に認可対象候補物質に該当する化学物質を0.1%以上含有する場合は届け出が必要。

# お取引先との協働

WEB より詳しい情報はCSRサイトへ

リンテック お取引先との協働

検索



リンテックグループでは、全てのお取引先を“相互発展を目指すパートナー”と考えて、信頼関係の構築に努めています。お取引先の選定にあたっては、自由な競争原理に基づき適正に評価し、公正・透明な取引を行い関連法規・社会規範を厳守した調達活動を行っています。

項目（マテリアリティ）	主要な評価指標（KPI）	実績*
人権デューデリジェンス*3の実施	サプライヤーアンケート調査の回答件数	107社 [A]
新興国における地産地消のビジネスモデルの構築	海外拠点での現地原材料登録システムの構築（活動評価）	グローバルでの原材料情報を管理するための検索システム開発中 [B]

実績の対象組織：[A]リンテック(株)／[B]リンテックグループ

## グリーン調達

リンテックグループでは、環境負荷低減を目指して、原材料、部品、副資材の化学物質管理を徹底しています。新たな材料を調達する際はもちろん、継続的に調達している材料についても、新たな規制への対応として製品含有化学物質を調査しています。

2019年度はREACH規則\*4第21次および第22次含有調査、chemSHERPA\*5 2.00含有調査で、原材料を対象に約5,000品種の調査活動を実施しました。

これからも、お取引先とともに環境保全活動の推進および化学物質管理の徹底に取り組んでいきます。

## CSR調達

リンテックでは、CSRの精神に基づいて「リンテック原材料調達基本方針」「リンテックグリーン調達方針」「リンテック木材パルプ調達方針」を定め、これらの方針に沿った調達活動を実施しています。

お取引先には、さまざまな機会を通じて、人権尊重、労働・安全衛生、情報セキュリティ、企業倫理など、多面的な観点からCSRの徹底をお願いしています。

2019年度もお取引先アンケートを実施し、CSRに関する項目では法令遵守、児童労働の禁止、安全・健康な労働環境などについて確認しました。日本国内で購入している原材料のお取引先約500社のうち、取引金額やBCP\*6の観点から選定した114社にアンケートを依頼し、107社\*のお取引先から回答を頂きました。うち10社には化学物質管理やコストに関する改善を要請しています。アンケート結果は供給者評価にも活用しています。

これからも調達活動の改善とお取引先との連携強化に努めていきます。

## ■ お取引先アンケートの調査項目（概要）

経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 財務状況</li> </ul>
マネジメント・労務	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 法対応・企業倫理</li> <li>● 労働（人権尊重、労働時間、賃金など）</li> <li>● BCP</li> <li>● 情報セキュリティー</li> </ul>
サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コスト</li> <li>● 納期</li> <li>● 情報提供（製品情報、技術情報、業界情報など）</li> </ul>
品質	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第三者認証（ISO9001など）</li> <li>● 管理体制（供給者、原材料、製造工程、製品など）</li> </ul>
環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第三者認証（ISO14001など）</li> <li>● 化学物質管理体制</li> </ul>

## 紛争鉱物\*7への対応

リンテックでは、採掘された鉱物が武装勢力の資金源となる紛争鉱物について、重大な社会問題であると認識し、使用する原材料において武装勢力が資金源としている鉱山に由来する金属の使用状況を調査しています。

今後も武装勢力の資金源とはならないサプライチェーンであることを確認し、武装勢力の資金源となる紛争鉱物を不使用とする調達管理を行っていきます。

\*5 chemSHERPA：経済産業省が推奨する製品含有化学物質の情報伝達共通スキーム。製品に含有される化学物質を川上から川下までサプライチェーン全体で適正に管理し、拡大する規制に継続的に対応するための仕組み。

\*6 BCP：Business Continuity Plan(事業継続計画)の略称。企業が事故や災害などの緊急事態に遭遇した場合、損害を最小限にとどめつつ、事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために事前に策定された行動計画。

\*7 紛争鉱物：米国金融規制改革法において規定された紛争鉱物に由来する金属は、タンタル、錫、タングステン、金。

# 人権とダイバーシティ



WEB より詳しい情報はCSRサイトへ

リンテック 人権

検索

リンテックグループでは、全ての従業員が社は「至誠と創造」の下、共に働いています。全従業員が平等に働きがいを持てるよう、人種、信条、性別、学歴、国籍、宗教、年齢、出身、身体的障がい、先住民、移民、性的指向、性自認などによるあらゆる差別的取り扱いをせず、従業員一人ひとりの多様性（ダイバーシティ\*1）を尊重しています。また、2011年より強制労働や児童労働の禁止を原則とする「国連グローバル・コンパクト」に参加しています。今後も、ダイバーシティを促進し、全従業員が互いを認め合いながら成長し続けることを目指してまいります。

項目（マテリアリティ）	主要な評価指標（KPI）	実績*
職場におけるダイバーシティの実現	(1) 女性の管理職比率 (2) 育児休業後の復帰率	(1) 13% [B] (2) 100% [A]
従業員満足度の向上	新卒3年以内の離職率	12.6% [A]

実績の対象組織：[A]リンテック(株)／[B]リンテックグループ

## ダイバーシティ促進検討委員会

リンテックのダイバーシティ促進検討委員会では、さまざまなライフスタイルや考え方を持つ多様な人材が、個々の能力を最大限に発揮し、生き生きと働ける職場環境の実現を目指して活動してきました。

これまで育児・介護に関する社内制度の拡充や環境整備など前向きな検討を継続的に進め、2019年度は、「傷病従業員サポート」を重要テーマと定め、治療を必要とした社員が、適切な治療を受けながら仕事を継続していけるよう「傷病従業員のための就業支援制度」の新設および関連規程の改訂も行いました。

また、サポート制度活用ブックも改訂しました。制度をより分かりやすく従業員に周知し、さらなる制度の浸透を図っていきます。



サポート制度活用ブック

### 2019年度の新設制度・改訂内容

新設制度の内容	<b>傷病従業員のための就業支援制度</b> 反復・継続した治療を必要とする病気に掛かった場合、または業務上や通勤途上におけるけがにより、就業上の支援が必要と認めた従業員への支援制度。勤務時間の短縮（時短・時差）や就業日数の短縮（週3～4日勤務）などの働き方をサポートする
関連規程の改訂内容	従業員本人が、保存休暇を使用できる条件を拡大

## 女性従業員の活躍推進

リンテックでは、「女性活躍推進法 第2期」に基づき、2019年4月1日から2022年3月31日の期間で目標を掲げ、女性従業員の活躍推進に取り組んでいます。新卒採用（短大/専門卒・大卒・大学院卒）における女性採用比率を全体の35%以上にするを目指しており、2019年度の実績は34.7%でした。

また、2022年3月31日までに、女性管理・監督職の人数を2018年度比10%増を目指し、ロールモデルとなりうる女性従業員の継続的育成を推進しています。2019年度は、女性従業員（本社）を対象に、女性管理・監督職との座談会形式の交流会を実施しました。また、継続的に行っている若手従業員（本社採用/入社4年目・7年目）への面談を通して、キャリア形成を支援しました。

### ■ リンテック(株)の男女別従業員数



### ■ リンテックグループの男女別従業員数（非連結含む）



（海外：2019年12月31日現在 国内：2020年3月31日現在）

\*1 ダイバーシティ：→P 06に記載。

\*2 管理職に占める男女の割合。

## 人権尊重の労務管理と教育

リンテックグループでは、企業活動の根幹に「コンプライアンス」があると考えており、国内外の企業活動において「関連法規」ならびに「社会ルール」の遵守を徹底しています。これは従業員の採用や就労に関しても同様であり、不当な差別行為、児童労働、ハラスメントの禁止など、労働関連法規を遵守した労務管理を行っています。

リンテックでは、階層別研修プログラムに人権教育を取り入れています。これまでに、「国連グローバル・コンパクトとCSR」に関する研修や、セクハラ・パワハラ研修を実施しています。

## ワークライフバランス

安心して仕事に取り組み、その能力を十分に発揮するには、「ワークライフバランス」の実現が不可欠です。

リンテックでは、多様な人材が生き生きと働ける職場環境づくりやキャリア促進に向けて、ダイバーシティ促進検討委員会を中心に多面的な取り組みを検討・実施してきました。

## メンタルヘルス対策

リンテックグループでは、予防型EAP\*3システムを導入しています。年1回の「心の健康診断」により、各自がストレスの状況を把握し自己管理に役立てるとともに、組織ごとの分析結果は経営層にフィードバックされ改善が図られます。2019年度はグループ全体で3,660人を対象に実施し、受診率は94.2%でした。

また、リンテックグループの社員とその家族のために、健康、メンタルヘルス、育児、介護、法律、家計などの悩みを専門家に相談できる、サポートホットラインを設置しています。

### ■ 予防型EAPシステムの概要

電話 カウンセリング	●心理専門相談員によるカウンセリング ●指導医との三者面談・医療機関の紹介
面接 カウンセリング	●直営相談所（東京・大阪・名古屋） ●提携機関（全国150か所）
WEB カウンセリング	●WEBによる個別相談
総合情報 サイト	●メンタルヘルス基礎知識の案内 ●メンタルセルフチェック

## 関連データ

### ■ 地域男女別従業員（人）

	男性	女性	合計
日本	3,032	670	3,702
アジア	1,095	371	1,466
その他	544	235	779
合計	4,671	1,276	5,947

（海外：2019年12月31日現在 国内：2020年3月31日現在）

### ■ 海外拠点における現地従業員（人）

	男性	女性	合計
総従業員数	1,738	606	2,344
現地従業員数	1,639	606	2,245
うち管理職*4	258	113	371

### ■ 新卒3年以内の離職率\*5（人）

	入社	退職	離職率
2017年新入社員（全社）	79	10	12.6%
男性	58	8	13.7%
女性	21	2	9.5%

### ■ 各制度の利用状況\*5★

制度	2017年度	2018年度	2019年度
介護休業制度（人）	0	1	0
介護休暇制度（人）	3	0	0
保存休暇制度（人）	74	89	92
出産休暇制度（人）	23	19	20
育児休業制度（人）	36	39	41
子の看護休暇制度（人）	7	9	13
時短・時差勤務制度（人）	36	45	57
社会貢献休暇制度（人）	21 （延べ54日）	38 （延べ71.5日）	22 （延べ40日）
有給休暇取得率（%）	64.0	65.2	66.5

### ■ 階層別研修 参加人数・研修時間\*5★

人数（延べ）	研修時間（延べ）*6
2,299人	11,791.5時間

\*3 予防型EAP：Employee Assistance Program（従業員支援プログラム）の略称。既に不調を訴えている従業員への「対処」に加え、健康な従業員に対する「予防」にも重点を置き、従業員が働きやすい職場をつくることで生産性を上げようとする従業員プログラム。

\*4 管理職：各国、各拠点での定義に従う。

\*5 「新卒3年以内の離職率」「各制度の利用状況」「階層別研修 参加人数・研修時間」はリンテック（株）の数値。ただし、階層別研修の「職場環境改善のためのハラスメント研修」のみグループ会社を含む。

\*6 時間把握が可能な研修のみ算出。

# 安全防災

WEB より詳しい情報はCSRサイトへ

リンテック 安全防災

検索



リンテックグループでは、ISO45001\*1に準拠した労働安全衛生方針を制定し、継続運用しています。方針にしたがって年間の安全衛生計画を策定しています。安全衛生計画では、重点実施項目ごとに目標や具体的な活動内容を設定しており、計画に沿った活動を実施しています。活動結果は、内部監査やマネジメントレビューで評価し、次年度の活動に役立てています。

項目 (マテリアリティ)	主要な評価指標 (KPI)	実績*
労働安全衛生への対応	(1) 労働/休業災害発生件数 (2) 完全無災害	(1) 4件 [C] (2) 5事業所*2が1年間無災害 [C]

実績の対象組織：[C]リンテック(株)、東京リンテック加工(株)

## 労働安全衛生方針

リンテックグループは、労働安全衛生マネジメントシステムISO45001の発効を受け、2018年に「リンテック労働安全衛生方針」の見直しを行い、新たな方針を制定しました。同時に「リンテック労働安全衛生マニュアル」も見直し、ISO45001に準拠したマニュアルと規定を整備しました。

全社的な活動としては安全相互監査や着火事故予防パトロールを実施しており、工場では年間安全衛生計画を策定し、安全活動のPDCAを回しています。毎年実施している全社安全大会を2019年5月に三島工場で開催しました。

今後も完全無災害に向け、積極的な活動を推進していきます。

## 年間安全衛生計画

リンテックグループでは、年度ごとに安全衛生活動の年間計画を策定しています。この安全衛生計画には経営層の方針が示され、方針を達成するため、安全パトロールやリスクアセスメント、安全教育などの重点実施項目を設定しています。重点実施項目については、さらに具体的な活動内容や目標を設定し、安全衛生活動に反映しています。活動結果と進捗状況については、毎月の安全衛生委員会で報告し、委員会のメンバー全員で改善について検討します。このようにPDCAを回しながら次の取り組みにつなげることで、安全衛生活動の継続的なレベルアップを図っています。

## 安全衛生委員会・衛生委員会

リンテックグループ国内外の工場では安全衛生委員会を、また本社、飯田橋オフィス、大阪支店などの営業部門

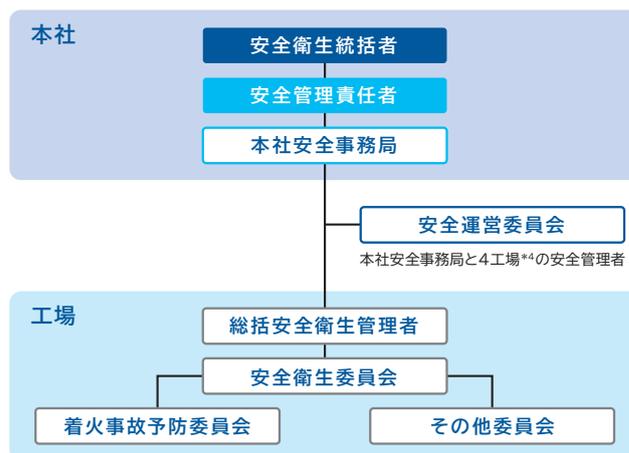
のある事業所では衛生委員会を毎月1回開催しています。各委員会には労働組合の代表者も出席し、各拠点長が最終の意思決定を行っています。

各事業所で行うリスクアセスメント\*3や安全衛生委員会では、従業員の意見を議事録に反映させ、従業員に情報を伝達しています。

### ■ 職場の安全と衛生に関する委員会

委員会	対象	活動内容
安全衛生委員会	工場・研究所	● 計画の実施 ● 災害の発生状況、安全教育実施状況、設備の点検結果、パトロール時の指摘・改善状況などの情報共有
衛生委員会	本社や営業部門がある事業所	● 健康や安全運転、防災活動などについて協議

### ■ リンテック安全衛生マネジメントシステム組織図 (本社・営業部門を除く)



## 休業災害ゼロに向けて

2019年度は、巻き込まれ災害による長期休業災害が1件発生し、前年度と比較して休業日数が大幅に増加しました。

\*1 ISO45001：労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格。  
\*2 5事業所：→P 13に記載。

\*3 リスクアセスメント：リスクを評価し、安全基準を設定すること。  
\*4 4工場：吾妻、熊谷、龍野、三島。

# コミュニティ参画



WEB より詳しい情報はCSRサイトへ

リンテック 地域社会

検索

リンテックグループでは、地域や社会の一部であることを認識し、共生を図りながら、社会に貢献するためのさまざまな取り組みを行っています。

項目 (マテリアリティ)	主要な評価指標 (KPI)	実績*
地域コミュニティとの共生を実現	(1) 工場見学延べ受け入れ人数 (2) 社会貢献活動の実施	(1) 800人 [C] (2) 下記参照 [B]

実績の対象組織：[B]リンテックグループ/[C]リンテック(株)、東京リンテック加工(株)

## ふれあいコンサート\*

2019年10月、板橋区立文化会館にて、第9回「リンテックふれあいコンサート」を開催しました。このイベントには、板橋区在住の障がい者の方々とその介助者、近隣住民の方などをご招待し、リンテック従業員を含め約550人が参加しました。

公演では、毎年恒例となっている板橋区ダウン症児・者 親の会「ほほえみの会」の子供たちによる手話ダンス、大東文化大学アカペラ部「ハーモニーコリン」によるコーラス、社会人ビッグバンド「FUN TIME BIG BAND」によるジャズ演奏、板橋区在住の子供ダンスチームによるステージが行われました。

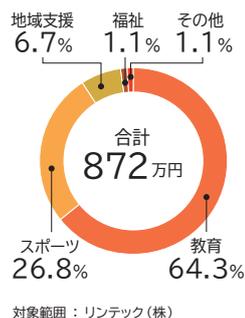
今後も地域の方々と触れ合える機会を大切にしていきます。



サポートスタッフ

## コミュニティ支援費用の内訳 (2019年度)

2019年度は、教育に関する支援が全体の過半数を占めました。このほか、スポーツ支援や地域支援なども実施しました。



## グローバルでの活動

リンテックグループでは、拠点を置くさまざまな地域で社会貢献活動を実施しています。

リンテック・シンガポール社では、リンテック・アジアパシフィック社との共同イベントにより、近隣の高齢者に日用品や食品などを寄付しました。

また、リンテック・インダストリーズ(サラワク)社では、サラワク州の先住民族であるビダユ族の村でハーブの植え込みづくりを行いました。

リンテックグループは、これからも地域に根ざした社会貢献活動を継続していきます。

## 私のネクストステージ

2019年に、DVや性暴力を受けた児童や女性の保護と就職を支援する公益財団法人と提携した活動を行いました。従業員の各家庭で使用していないキッチン用品や洋服などを整理し、計10箱の物資を寄付しました。本活動は社会貢献のみならず、資源の節約や環境保全にもつながる取り組みです。



キッチン用品37点、電気製品22点、洋服70着、カバン14個を寄付

CSR活動にはさまざまな形態があることを理解しました。

リンテック・アドバンスト・テクノロジー(台湾)社 広報部

Pei-Chi Chou  
(ペーチー・チョー)





### 環境面での活動

#### 琳得科（蘇州）科技有限公司

- 所在地：中国 蘇州市
- 従業員数：176人
- 主な事業内容：印刷材・産業工材および洋紙・加工材関連製品の製造販売



工務課  
楊 水芳  
(ヤン・スウェイファン)

2019年4月、蘇州太湖の水質保全を目的に、地域の環境保護産業協会が主催する稚魚放流活動に当社の従業員7人が参加しました。約300人の活動参加者とともに、藍藻を食するフナ、カワヒラなどを約10,000匹放流し、太湖の水質保全に貢献しました。



稚魚の放流



### 環境面での活動

#### 普林特科（天津）標籤有限公司

- 所在地：中国 天津市
- 従業員数：94人
- 主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売



品質保証 環境安全部  
張 琨  
(ジャン・クン)

生物多様性保全に向けた取り組みの一環として、2019年4月に柿の木5本とりんごの木1本を当社敷地内に植樹しました。秋には果実が実り、従業員みんなで楽しみながら観賞しました。自然と身近に触れ合う機会が増えたことで、環境意識の向上につながりました。



柿の木の植樹



### 社会面での活動

#### リンテック・スペシャリティールームズ（台湾）社

- 所在地：台湾 台南市
- 従業員数：88人
- 主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



工安室  
鄭 文杰  
(テイ・ブンケツ)

2019年5月、本格的な台風到来の季節を迎える前に、台風豪雨を想定した演習を実施しました。演習に参加した全従業員協力の下、台風の発生から警報発令、警報解除に至るまでの一連を想定した流れの中で、当社のBCP対応が適切に機能することを確認しました。



台風通過後を想定した工場内点検の演習



### 環境面での活動

#### リンテック・アドバンス・テクノロジーズ（台湾）社

- 所在地：台湾 高雄市
- 従業員数：78人
- 主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



ISO推進室  
Chen-Jung Liao  
(チェンジョン・リャオ)

2019年12月、高雄市に隣接する台南市の漁光島で海岸清掃を行いました。従業員のほか、その家族や友人も参加し、みんなで協力して46.2kgのごみを回収しました。清掃後は、台南市内の文化施設や自然公園を訪問し、自然や生物多様性の大切さを学びました。



海岸清掃活動の参加者

## グローバルCSR報告



### 社会面での活動

#### リンテック・コリア社

- 所在地：韓国 忠清北道清州市
- 従業員数：112人
- 主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



総務課  
Moon Ji-Eun  
(ムン・ジウン)

2019年11月に「愛のキムチづくり」を行いました。約25人の従業員がキムチを手づくりし、地域支援センターを通して、一人住まいの高齢者や一人親家庭にお届けしました。このキムチには、寒い冬を少しでも暖かく過ごしていただきたいという従業員の思いが込められています。



活動参加者と手づくりキムチ



### 社会面での活動

#### リンテック・スペシャリティールームズ（韓国）社

- 所在地：韓国 京畿道平澤市
- 従業員数：124人
- 主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



人事総務課  
金 性壽  
(キム・ソンス)

2019年末に、当社で使用しているコーヒーマシンの収益金および寄付金を、近隣の重症障がい者福祉施設「アナユルの家」に寄付しました。今後もこの取り組みを継続し、コーヒーマシンの収益金は毎年寄付する計画です。



コーヒーマシンの収益金および寄付金の贈呈



### 環境面での活動

#### リンテック・インドネシア社

- 所在地：インドネシア ボゴール市
- 従業員数：161人
- 主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売



品質保証部  
Sugiharto  
(スギハルト)

2019年4月にマングローブ植樹活動を行いました。また、本取り組みの実施に先駆け、活動参加者のボゴール水産大学の学生42人に講義を実施しました。温室効果ガスに対するマングローブの有効性や適切な植樹方法を説明し、学生たちは熱心に聴講してくれました。



大学での講義



### 社会面での活動

#### リンテック・ジャカルタ社

- 所在地：インドネシア ジャカルタ州
- 従業員数：24人
- 主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の販売



総務人事部  
Sitha Damayanti  
(シータ・ダマヤンティ)

持続可能な社会の実現を担う一員としての意識を高めてもらうため、全従業員にSDGsバッジを配付しました。なお、インドネシアではSDGsの社会的認知度が低いため、SDGsに関連する記事などをまとめた情報を従業員にメールで発信し、SDGsの理解促進を図りました。



バッジとともに配布したSDGsの案内文書



### 環境面での活動

#### リンテック・インダストリーズ (マレーシア) 社

- 所在地: マレーシア ペナン州
- 従業員数: 97人
- 主な事業内容: 電子・光学関連製品の製造販売



製造部  
Mokhtar Bin Osman  
(モクタル・ビン・オスマン)

2019年10月、環境保全活動の一環として、ペナン州で植樹活動を実施しました。従業員79人が参加し、州政府の森林課の方々と協力しながら100本の植樹を行いました。



従業員による植樹



### 社会面での活動

#### リンテック・インダストリーズ (サラワク) 社

- 所在地: マレーシア サラワク州
- 従業員数: 25人
- 主な事業内容: 電子・光学関連製品の製造販売



総務人事部門  
Michael Benzi Junior  
(マイケル・ベンジ・ジュニア)

当社では毎朝、始業前の15分程度、近隣の道路の落ち葉や溝の清掃活動を15年以上継続して行っています。2019年度は、路肩にペイントされているゼブラ模様を業務の合間に再塗装しました。



塗装したゼブラ模様



### 社会面での活動

#### リンテック・シンガポール社

- 所在地: シンガポール
- 従業員数: 65人
- 主な事業内容: 印刷材・産業工材および電子・光学関連製品の製造販売



人事部  
Faith Lim  
(フェイス・リム)

2019年9月、リンテック・アジアパシフィック社との共同イベントにより、近隣の高齢者250人に薬用オイル、パウダー、フェイスタオル、食品などを寄付しました。皆さんの喜ぶ顔を見て、社会貢献の重要性を再認識しました。来年も同イベントを継続していきたいと思えます。



イベント参加者



### 社会面での活動

#### リンテック・タイランド社

- 所在地: タイ チャチェンサオ県
- 従業員数: 190人
- 主な事業内容: 印刷材・産業工材および洋紙・加工材関連製品の製造販売



ISO担当  
Paweena Hang-Klang  
(パウエーナ・ハンクラング)

2020年2月に社員旅行を行い、タイの有名な観光地であるペッチャブリー県チャムビーチを訪れました。夜にはチームビルディングパーティーを開催し、翌日はタイの高僧であるトゥアットの仏像があるファイモンコン寺院を参拝して従業員のコミュニケーションを図りました。



トゥアットの仏像前で記念撮影

グローバル企業としての責任を果たすため、海外グループ各社において地域に根ざしたCSR活動を推進しています。

[WEB](#) より詳しい情報はCSRサイトへ [リンテック 海外グループ会社のCSR活動](#) [検索](#)



### 環境面での活動

#### リンテック・オブ・アメリカ社 ナノサイエンス&テクノロジーセンター

- 所在地: アメリカ テキサス州
- 従業員数: 29人
- 主な事業内容: 研究・開発



Operational Safety Assistant  
Will Barron  
(ウィル・バロン)

廃棄物排出量の削減とリサイクルに貢献するため、事務所や研究施設で発生する段ボール、プラスチック製飲料ボトル、アルミ缶などの分別に取り組み、リサイクルを推進しました。



プラスチック製飲料ボトルの回収ボックス



### 環境面での活動

#### マディコ社

- 所在地: アメリカ フロリダ州
- 従業員数: 196人
- 主な事業内容: 印刷材・産業工材関連製品の製造販売



CSR委員会  
Kelli Houdek  
(ケリー・ホーデック)

地域の非営利活動団体主催のイベントに当社従業員が参加し、穴を空けてロープを通した牡蠣の殻を垂直につなげ、岸から吊り下げる取り組みを支援しました。産卵シーズン中、稚牡蠣が潮の流れで殻に附着し、健康な牡蠣に成長します。



イベントに参加した従業員



### 社会面での活動

#### VDI社

- 所在地: アメリカ ケンタッキー州
- 従業員数: 41人
- 主な事業内容: 印刷材・産業工材関連製品の製造販売



CSR委員会  
Toni Doughty  
(トニー・ドーティ)

当社では、食料が不足している世帯に食料援助を行うDare to Careという団体の活動を支援しています。2019年度は、地域の方々から寄付された4,500kg以上の食品を箱詰めする仕分け作業をお手伝いしました。



支援活動を行ったCSRチーム



### 社会面での活動

#### マックタック・アメリカ社

- 所在地: アメリカ オハイオ州
- 従業員数: 453人
- 主な事業内容: 印刷材・産業工材関連製品の製造販売



2020年2月、ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズとの提携による社会貢献活動を行いました。本団体は、治療を受ける子供やその家族に宿泊施設を提供しています。オハイオ州アクロンにある児童病院と隣接するハウスで、従業員6人が食事を提供しました。



ハウスでの料理づくり

# 気候変動の緩和と適応

WEB より詳しい情報はCSRサイトへ

リンテック 気候変動の緩和と適応

検索



事業活動を継続するうえで大きなリスクとなる気候変動などに適応するため、さまざまな環境活動に力を注いでいます。

項目（マテリアリティ）	主要な評価指標（KPI）	実績*
原材料の効率的な利用	有機溶剤の使用量	18千t [A]
大気への排出物の削減	国内の事業活動におけるCO <sub>2</sub> 排出量	163千t [C]
製品およびサービスを通じた環境面での貢献	環境配慮製品の開発件数	59件 [A]

実績の対象組織：[A]リンテック(株)／[C]リンテック(株)、東京リンテック加工(株)

## リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

リンテックグループは、「リンテックグループ活動指針」にある「品質・環境・事業継続方針」にて、「基本方針」を掲げています。具体的な活動を実践するために、「品質方針」、「環境方針」、「事業継続方針」を定め、それぞれに「行動指針」を示しています。気候変動の緩和と適応については、環境方針の行動指針に基づき、研究部門では環境対応製品の開発、生産部門では大気排出VOC\*1量の削減、廃棄物発生量の削減、エネルギー（電気・燃料）使用量の削減、CO<sub>2</sub>排出量の削減などに取り組んでいます。

## 環境マネジメントシステム

リンテックグループは、「品質・環境・事業継続方針」に基づき、地球環境保全に積極的に取り組んでいます。ISO 14001のグローバル統合では、2019年度にマディコ社の移転に伴う変更審査を受け、国内12登録事業所、海外10登録事業所で情報の共有化を進めています。第三者検証では、電力使用量、用水使用量、CO<sub>2</sub>排出量、廃棄物発生量に加え、2019年度から大気排出VOC量についても

検証を受け、修正すべき重要な事項はありませんでした。生物多様性の保全では、植樹活動や海岸などの清掃活動を継続して取り組んでいます。また、CLOMA\*2にも加盟し、環境配慮製品の提案と啓発にも取り組んでいます。

## 気候変動の緩和に向けた取り組み

国内リンテックグループ\*3における2019年度のエネルギー総使用量（原油換算：省エネルギー法対象範囲）は、生産量の減少により前年度から1.3%減少しました。エネルギー原単位は0.7%改善し、0.309kℓ/tになりました。また、CO<sub>2</sub>排出量は163千tとなり、2018年度の179千tよりも減少しました。2020年度は、低炭素排出の電力使用にも継続して取り組み、2019年度原単位で、CO<sub>2</sub>排出量は1%、電力使用量は1%の改善を目指しています。

## 製品開発における取り組み

リンテックグループは、環境負荷低減を指向した製品の開発に力を注いでいます。また、設計から廃棄までLCA\*4を参考に環境負荷低減に努めています。

## 中期目標（2017年度～2019年度）と実績 対象範囲：リンテック(株)

項目	目標	2019年度実績（前年度からの削減率）
CO <sub>2</sub> 排出量	対前年度原単位で1%削減	9.0% <span style="background-color: #c8e6c9;">目標達成</span>
電力使用量	対前年度原単位で1%削減	4.8% <span style="background-color: #c8e6c9;">目標達成</span>
用水使用量	対前年度原単位で1%削減（三島工場・熊谷工場の洋紙生産）	0.3% <span style="background-color: #e0e0e0;">目標未達</span>
廃棄物発生量	対前年度発生量から0.1%削減	5.3% <span style="background-color: #c8e6c9;">目標達成</span>

CO<sub>2</sub>排出量および電力使用量は、コージェネレーション（熱電併給）システムの導入により、自家発電量が51千MWhから56千MWhに増加し、購入電力量が減少したことなどにより目標を達成しました。用水使用量は、多品種小

ロット対応に伴う洗浄水使用量が増加したため目標未達となりましたが、品種替え時の用水再利用を検討し、引き続き削減に取り組んでいきます。廃棄物発生量は、歩留まり向上への改善と分別の徹底により、削減目標を達成しました。

\*1 VOC：→P 13に記載。

\*2 CLOMA：Clean Ocean Material Allianceの略称。海洋プラスチックごみの削減に向けてプラスチック製品の持続可能な使用や代替素材の開発・導入を推進し、官民連携でイノベーションを加速化するためのプラットフォーム。経済産業省が主導。

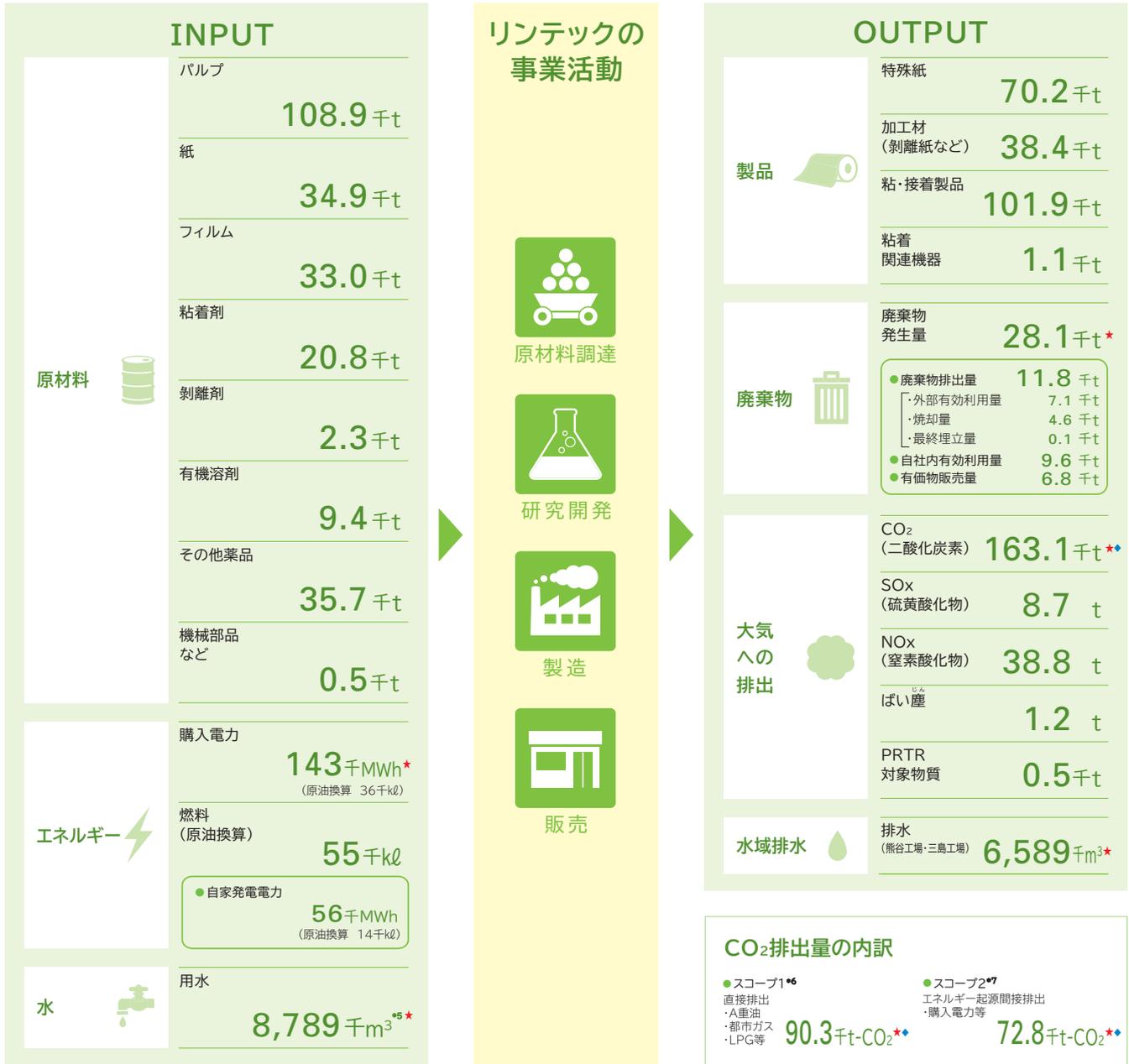
\*3 国内リンテックグループ：→P 10に記載。

\*4 LCA：→P 12に記載。

\*5 集計時はtを使用しているが、本レポートではm<sup>3</sup>に変換して報告。

# マテリアルフロー

対象範囲：リンテック(株)の本社、10生産拠点、研究所、東京リンテック加工(株)



\* マークを表示した数値は、SGSジャパン株式会社の第三者検証を受けています。  
 ◆ マークを表示した数値の検証範囲は、従来報告値の98%に相当しています。CDP\*8対応については総量管理で対象を広げながら取り組んでいます。

## 製造における取り組み

国内リンテックグループ全体のエネルギー使用量は、原油換算で年間1,500kℓ以上になります。そのため、省エネルギー法に基づき、特定事業者の指定を受け、エネルギー原単位を年1%以上・電気需要平準化原単位1%以上改善することが求められています。リンテックの国内9工場で全体の95%以上のエネルギーを使用しており、各工場の取り組みが重要になります。2019年度は、生産設備およびボイラーの効率運転、空調管理、照明のLED化推進などの省エネルギー活動に取り組みました。

## 物流における取り組み

リンテックは、物流・運輸部門を保有していませんが、省エネルギー法で定められている特定荷主(輸送量3,000万トンキロ\*9/年以上)に該当しています。これに対応するため、報告書を年1回、国に提出しています。2019年度の輸送量は前年度より3.6%(3,534千トンキロ)減少しました。CO<sub>2</sub>排出量は4.3%(467t-CO<sub>2</sub>)削減し、エネルギー使用量原単位(輸送量当たり)については約0.7%改善することができました。今後も、物流体制の改善、輸送積載効率向上に取り組み、環境負荷の低減に努めていきます。

\*6 スコープ1：自社で購入した燃料の使用に伴い直接排出されたCO<sub>2</sub>などの温室効果ガス排出量のこと。液化天然ガス(LNG)、プロパンガス(LPG)、都市ガス、灯油、軽油、ガソリンなど、ガスや液体燃料が対象。  
 \*7 スコープ2：自社で購入した電力や蒸気などを他社でつくる際に排出されるCO<sub>2</sub>などの温室効果ガス排出量のこと。

\*8 CDP：企業に環境分野(気候変動・水・森林など)の情報開示を求め、分析レポートの発行を続けている国際NGO。  
 \*9 トンキロ：貨物の輸送量を表す単位で、1回ごとの貨物のトン数とその輸送距離を掛け合わせたもの。1tの貨物を1km輸送した輸送量が1トンキロ。

# 廃棄物・用水使用量の削減

WEB より詳しい情報はCSRサイトへ [リンテック 廃棄物の削減](#) 検索 [リンテック 用水](#) 検索



循環型社会の実現に向け、廃棄物削減に取り組むとともに、節水と回収水の再利用、排水基準の遵守、排水水質にも十分に注意を払っています。

項目（マテリアリティ）	主要な評価指標（KPI）	実績*
環境面でのコンプライアンス対応	重大環境法令違反件数（罰金/制裁措置）	0件 [D]

実績の対象組織：[D]リンテック(株)本社、10生産拠点、研究所

## 用水使用量と排水量の削減

リンテックにおける2019年度の用水使用量は、8,789千m<sup>3</sup>でした。このうち約90%を製紙部門がある熊谷工場と三島工場で使用しています。2019年度は原単位で47.0m<sup>3</sup>/t\*1となり、目標の対前年度1.0%削減は達成できませんでした。

2020年度は原単位比で対前年度1.0%削減を目指しています。目標の達成に向け、各工程における用水使用量と排水量の削減および漏水対策に継続して取り組んでいきます。

### ■ 用水使用量と排水量

種別	2019年度（千m <sup>3</sup> ）
用水合計（水源別に集計）	8,789
●水道水	510
●工業用水	4,455
●地下水	3,824
排水	6,589

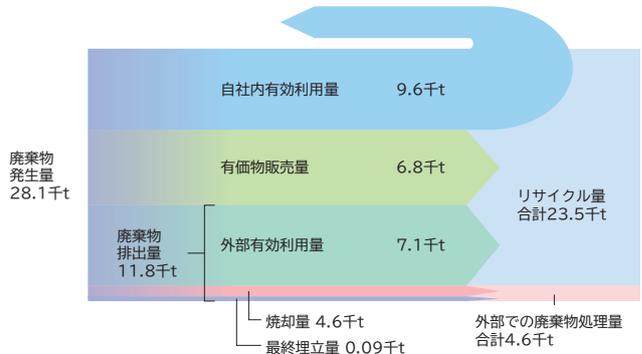
## ゼロエミッション\*3に向けた取り組み

リンテックにおける2019年度の製造ロスを含めた廃棄物発生量は28.1千tで、廃棄物排出量は11.8千tとなりました。このうち7.1千tは外部で再資源化され、それ以外の4.6千tは委託している廃棄物処理業者により、適正に処分されました。

2019年度の最終埋立比率\*4は0.3%となり、最終埋立比率1.0%以下を達成しました。2019年度から2020年度における廃棄物発生量は、対前年度発生量の0.1%削減を目指しています。

### ■ 廃棄物の流れ（2019年度）

対象範囲：リンテック(株)の本社、10生産拠点、研究所、東京リンテック加工(株)



## 私のネクストステージ

三島工場では、ドレン\*2を回収再利用し、用水と熱を有効活用しています。今後もさらなる節水、再利用に取り組み、用水使用量の削減に努めていきます。



三島工場  
工務部 設計工作課  
山田 登

## 私のネクストステージ

千葉工場では、廃棄物排出量削減のために分別を徹底し、有価で売却しています。各職場の努力により、排出される廃棄物は年々減少しています。今後も工場全体で、廃棄物削減に努めていきます。



千葉工場  
工場長付  
金子 奨

\*1 集計時はt/tを使用しているが、本レポートではm<sup>3</sup>/tに変換して報告。  
\*2 ドレン：気体である蒸気が液体である水に相変化したもの。熱交換器などで蒸気を使用するとドレンが発生する。  
\*3 ゼロエミッション：リンテックの基準は、最終埋立比率が1.0%以下。

\*4 最終埋立比率：次式で求められる数値。最終埋立比率=最終埋立量/廃棄物発生量×100

# 環境負荷物質の削減



WEB より詳しい情報はCSRサイトへ [リンテック 環境負荷化学物質の削減](#) 検索

国内外における環境関連法令や各種規制を遵守し、環境に負荷を与える化学物質の削減に努めています。

項目 (マテリアリティ)	主要な評価指標 (KPI)	実績*
大気への排出物の削減	国内の事業活動におけるVOC*5排出量	869t [E]

実績の対象組織：[E]リンテック(株)の生産拠点(伊奈を除く)、研究所

## PRTR法\*6への対応

リンテックが2019年度に届け出たPRTR対象物質はトルエン、キシレンなどで総取扱量は7,817tでした。取扱量が最も多かった物質はトルエンで全体量の約98%を占め、7,652tで前年度より267t減少しました。2019年度のトルエンの大気への排出量は464tで前年度より25t減少し、移動量は363tで前年度より166t減少しました。

リンテックでは、有機溶剤の大気排出を除去するため排ガス処理装置を設置しています。処理装置を稼働させずに工場生産を行うことを禁止しており、2019年度は生産時に処理装置を稼働させなかった事例はありませんでした。

## 化学物質管理、EUにおける各種環境規則への対応

リンテックでは、環境負荷につながる化学物質の対象を定め、購入原材料について調査を実施しています。化学物質の適切な管理・把握により、関連法規の遵守およびお客様への情報伝達に努めています。

なお、REACH規則\*7において、2020年1月に情報伝達義務のあるSVHC(高懸念物質)認可対象候補物質として新たに4物質が確定し、合計で205物質となりました。また、RoHS指令\*8の規制において、現在使用が規制されている6物質にフタル酸エステル類4物質が禁止対象物質となり、2019年7月22日から適用を拡大する改正がありました。

リンテックでは、フタル酸エステル類非含有品への切り替えを進め、環境に配慮した製品対応に努めています。今後も製品含有化学物質の管理を強化していきます。

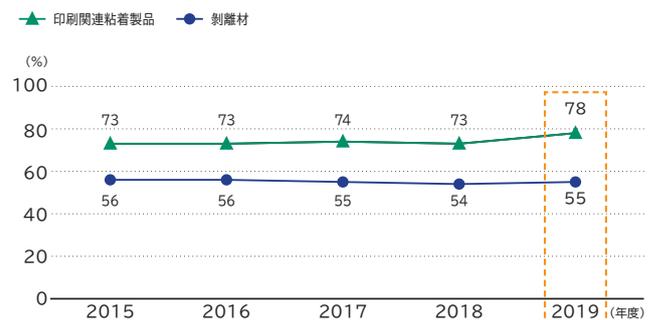
## VOCの削減

リンテックでは、VOCの削減を推進しています。製品設計時には、VOCのうち有機溶剤使用量の削減に向け、剥離紙に用いる剥離剤と印刷関連粘着製品に用いる粘着

剤の無溶剤化を進めています。2019年度の剥離紙の無溶剤化率(生産量ベース)は55%、印刷関連粘着製品の無溶剤化率(販売量ベース)は78%となりました。無溶剤化率は例年ほぼ横ばいで推移しています。

リンテックでは、排ガス処理装置の設置は完了してはいますが、引き続き、確実な処理設備管理、無溶剤化率の数値管理、無溶剤化製品の開発・拡販などを実施し、さらなる環境負荷低減に努めていきます。

■ 印刷関連粘着製品と剥離紙の無溶剤化率



注) 1. 印刷関連粘着製品の無溶剤化率=無溶剤型印刷関連粘着製品の販売量/印刷関連粘着製品の全販売量×100  
2. 剥離紙の無溶剤化率=無溶剤型剥離紙の生産量/剥離紙の全生産量×100

## 私のネクストステージ

吾妻工場ではRTO(排ガス処理装置)を導入し、塗工機だけでなく室内局所排気等からの低濃度溶剤ガスも一緒に処理しています。さらに、溶剤ガスの除去率も98%以上と高水準です。今後もVOC削減に努めていきます。



吾妻工場  
製造部 設備技術課  
里吉 名知夫

\*5 VOC：→P 13に記載。

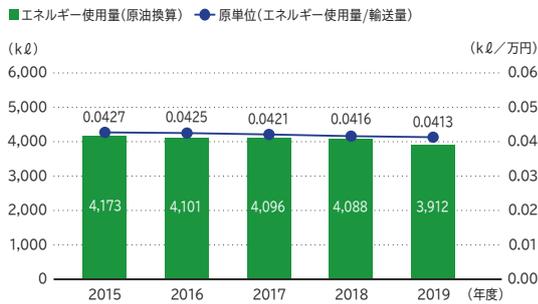
\*6 PRTR法：Pollutant Release and Transfer Register (化学物質の排出・移動量)の届出制度を法制化したもの(特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律)の略称。

\*7 REACH規則：→P 18に記載。

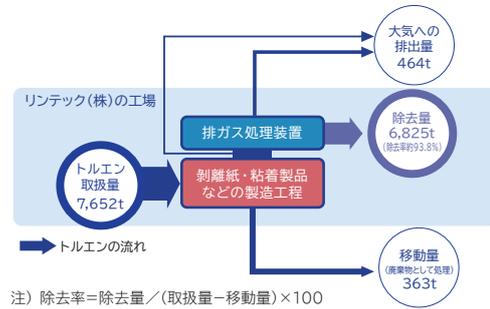
\*8 RoHS指令：→P 18に記載。

## 関連データ

### 物流におけるエネルギー使用量



### トルエンの排出量・移動量



### 物流におけるCO<sub>2</sub>排出量と輸送量



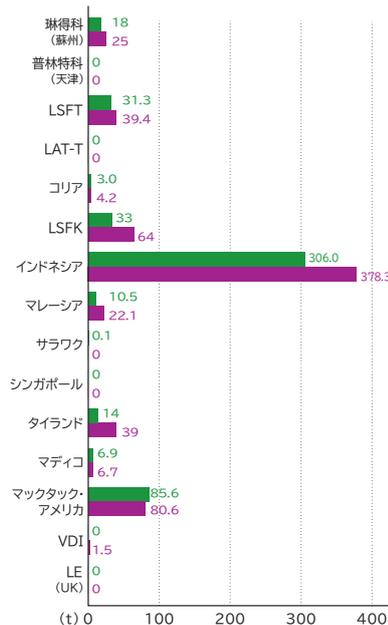
### 処理排水量 (熊谷工場・三島工場)\*1



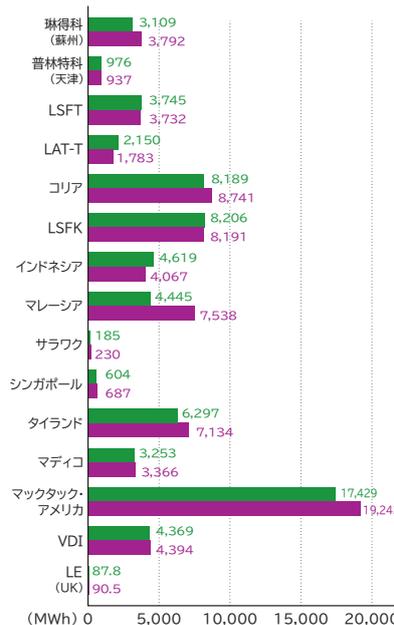
### 海外グループ会社15社における環境データ

2019年データ (集計期間: 2019年1月1日から12月31日まで) 2018年データ (集計期間: 2018年1月1日から12月31日まで)

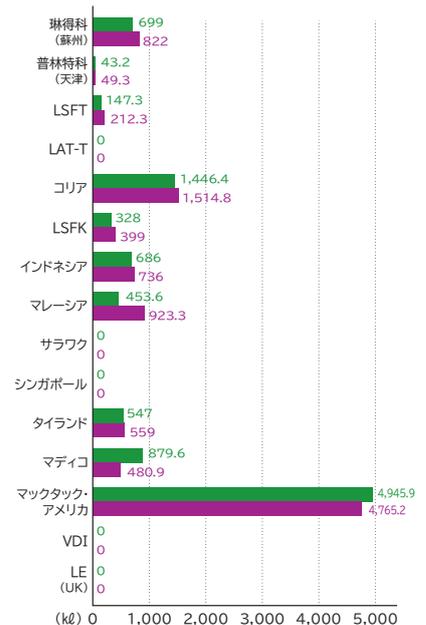
#### VOC\*\*排出量



#### 電力使用量



#### 燃料 (軽油/天然ガス) 使用量 (原油換算)



注) 1. VOCは、トルエン、メチルエチルケトンを対象としています。 2. 燃料使用量の原油換算に用いた各燃料の発熱量は、省エネルギー法施行規則第4条に規定されている数値を使用しています。 3. LSFT:リンテック・スペシャリティ・フィルムズ(台湾)社 LAT-T:リンテック・アドバンス・テクノロジー(台湾)社 LSFK:リンテック・スペシャリティ・フィルムズ(韓国)社 LE(UK):リンテック・ヨーロッパ(UK)社

\*1 熊谷工場と三島工場に設置されている排水処理設備の流量計合計値。  
\*2 VOC: →P 13に記載。

リンテックグループでは、法令遵守を徹底し、経営の透明性と企業倫理の意識を高め、迅速な意思決定と効率的な業務を執行していくことが、コーポレート・ガバナンスの基本だと考えています。その充実・強化を通じて、リンテックグループの企業価値および株主共同利益のさらなる向上を目指します。

項目 (マテリアリティ)	主要な評価指標 (KPI)	実績*
グローバルガバナンスの運営	(1) 国内外の相談窓口の活用 (2) 各国の法令と自社基準に照らし合わせた、内部監査部門による監査結果	(1) 3件 [B] (2) 重大な指摘事項なし [B]
社会面でのコンプライアンスへの対応	役員・管理職を対象とした コンプライアンスアンケート調査回答率	リスク洗い出し調査回答率 82.0% [B] ※ リスク洗い出し調査を実施したため、コンプライアンスアンケート調査は未実施

実績の対象組織：[B]リンテックグループ

## コーポレート・ガバナンス体制

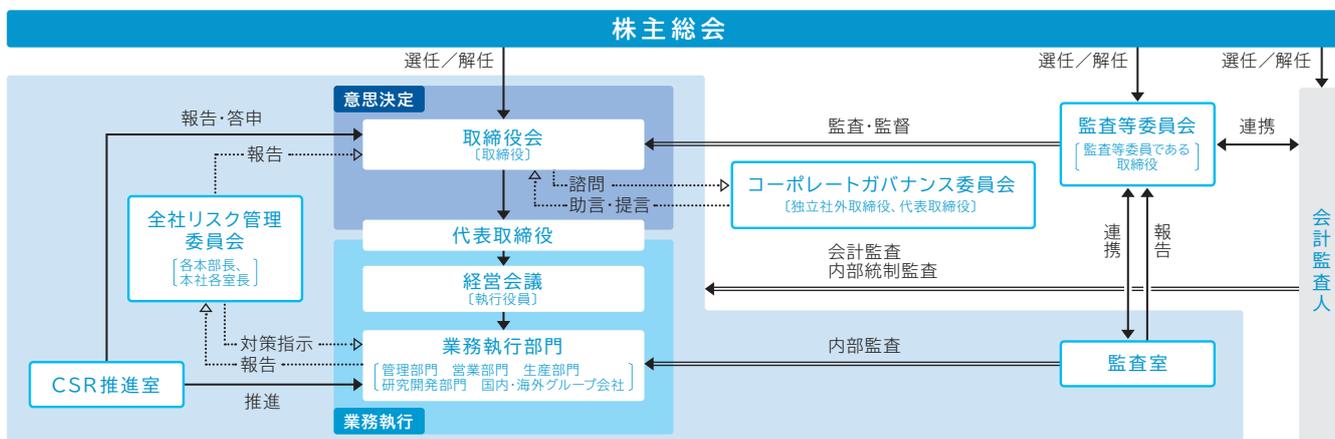
リンテックでは、機関設計\*3として監査等委員会設置会社\*4を選択しており、監査等委員である取締役を置き、取締役会の監督機能を強化し、コーポレート・ガバナンスの一層の充実とさらなる経営の効率化を図っています。なお、取締役は10人であり、うち3人が監査等委員である取締役となっています。当社の社外取締役は4人(男性：2人、女性：2人)で、うち3人(男性：1人、女性：2人)が独立社外取締役、うち2人(男性：1人、女性：1人)が監査等委員である取締役となっています。また、執行役員制度を採用し、経営の重要な意思決定を行う取締役と、業務を執行する執行役員とを分離しています。

このほか、取締役会の諮問機関として、独立社外取締役を議長とするコーポレートガバナンス委員会(独立社外取締役2人および代表取締役1人で構成)を設置しており、役員報酬・人事の妥当性を確認しています。

## ■ コーポレート・ガバナンス強化の取り組み

年度	主な取り組み
2004	●初めて社外取締役を選任
2006	●「監査室」を新設 ●役員報酬制度を改革(「退職慰労金」廃止、「株式報酬型ストックオプション」導入) ●「評価報酬諮問会議」を新設(役員報酬の妥当性を確認する会議体)
2008	●「CSR推進室」を新設 ●社外取締役が2人体制に
2011	●執行役員制度を導入し、取締役を大幅減員(18人→10人)
2015	●「監査等委員会設置会社」へ移行(以前は「監査役会設置会社」) ●取締役16人体制(監査等委員である取締役4人を含む)となり、うち4人が社外取締役 ●「コーポレートガバナンス・コード」の各原則を全て遵守・実施
2018	●役員報酬制度を改革(役員の自社株保有促進のため、長期インセンティブ報酬を「株式報酬型ストックオプション」から「譲渡制限付株式」に変更) ●「大規模買付ルール」(いわゆる「買収防衛策」)を廃止 ●取締役会の諮問機関として、独立社外取締役を議長とする「コーポレートガバナンス委員会」を新設(独立社外取締役2人および代表取締役1人で構成し、役員報酬・人事に関し妥当性を確認する委員会。これに伴い「評価報酬諮問会議」は解消)

## ■ コーポレート・ガバナンス体制



\*3 機関設計：株式会社の意思決定や運営などを行う「機関」(株主総会、取締役などの)構成を決めること。

\*4 監査等委員会設置会社：監査等委員として選任された取締役3人以上(過半数は社外取締役)で構成する監査等委員会が取締役の業務執行を監査・監督する株式会社。

## コーポレートガバナンス・コード\*1への対応

リンテックでは、コーポレートガバナンス・コードの各原則を遵守しています。これまで同コードを参考に、取締役会実効性評価によるPDCAの実施や、コーポレートガバナンス委員会設置などの取り組みを積み重ねてきました。

今後も引き続き、コーポレートガバナンス・コードを遵守・実施していくことはもとより、社会状況や当社の取り組み状況に照らし、不足と感ずる事項は、社外取締役を含む経営層と議論を重ね、継続的な改善に取り組んでいきます。

## リスク管理

リンテックグループでは、リスク管理体制強化のため、本部長と社長直轄組織の室長からなる全社リスク管理委員会を2018年4月に設置し、定期的に委員会を開催しています。本委員会において会社経営に関わるリスクを洗い出し、対応すべきリスクの特定・分析・評価を行い、問題発生防止に取り組んでいます。また、委員会の状況は委員長から取締役会へ四半期ごとに報告され、情報を共有し指示を受けています。

今後も、リスク管理能力強化に努めるとともに、リスクと機会を適時に捉え、リンテックグループの持続的成長につなげていきます。

## 経営層および従業員への法務教育

リンテックでは、企業法務の理解促進に向け、取締役および執行役員を対象とした経営層向け研修を実施しています。2019年度は、2019年10月に「M&Aと取締役の責任」、2020年1月に「移転価格・収益認識」をテーマとした研修を行いました。

従業員に対しては、選抜された中堅営業職を対象とした「営業職法務研修」(年間8回程度)を実施しているほか、新任管理職や新任係長を対象とした毎年の集合研修においても法務に関する講義を取り入れています。さらに、注目すべき法務関連情報を発信する「リーガルニュース」を年6回発行しています。

これらの研修や情報発信を通じ、日常の事業活動に潜む「法的リスク」への感度を向上させ、リスクの早期発見・対応につなげていきます。

## ■ 2019年度に発行したリーガルニュース

発行	No.	タイトル
2019年 5月	28	時代の変わり目を目撃せよ！民法改正①
2019年 7月	29	時代の変わり目を目撃せよ！民法改正②
2019年 10月	30	知らなかったでは済まされない！輸出管理規制と当社のルール
2019年 11月	31	不正競争防止法
2020年 1月	32	インサイダー取引規制について
2020年 3月	33	2019年4月から2020年3月までのニュースまとめ

## 人権・労働に関するグローバル調査

リンテックグループでは、グループ全社を対象に、人権および労働に関する実態調査を年1回実施しています。

調査項目は、法対応や差別の撤廃、人権尊重、児童労働の禁止、強制労働の禁止、賃金、労働時間、従業員との対話・協議、安全・健康な労働環境、人材育成など多岐にわたります。

2020年2月にも調査を実施\*し、各国・各地域での法令遵守はもちろん、リンテックグループの行動規範が理解され、基本的人権が尊重された安全で健康な労働環境が確保されていることを確認しました。

今後も年1回定期的に調査を行い、実態把握とその改善に活用していきます。

## 全社BCMS\*2の構築

リンテックおよび東京リンテック加工、リンテック・スペシャリティー・フィルムズ(台湾)社は、地震をはじめとするさまざまな災害発生時に、人的被害を最小限にとどめ、早期に事業を再開できるよう、BCP\*3の策定に取り組んでいます。

2014年3月にISO22301\*4:2012の認証を取得し、BCPを維持・改善するためにBCMSを運用しています。

今後も演習を繰り返しながら、全従業員へBCMSの浸透を図り、活動の活性化と充実に努めていきます。

## 情報セキュリティ

リンテックでは、「情報セキュリティ管理規程」を策定するとともに、毎年「情報セキュリティ運用細則兼内部監査チェックリスト」に基づき、各部署で自己チェックを実施しています。

2019年度は、新たにe-ラーニングによる情報セキュ

\*1 コーポレートガバナンス・コード：コーポレート・ガバナンスの強化を図るため、上場企業が守るべき行動規範の主要な原則を金融庁と東京証券取引所が取りまとめたもの。

\*2 BCMS：Business Continuity Management System(事業継続マネジメントシステム)の略称。企業の重要な製品またはサービスに重大な影響を与えるインシデント発生の際に「事業を継続」するため、組織の現状を理解して事業継続計画を策定し、演習により計画の実効性評価を行い、システムを運用するマネジメント手法。

リティー自己監査を実施し、情報管理に関する従業員の理解促進と意識向上に努めました。

また、不適切投稿などが社会問題となっている状況に鑑み、社内での情報管理ルールの徹底を図るだけでなく、個人でSNSを使用する際の注意事項なども含めた総合的な教育を行っています。

### 相談窓口の設置(内部通報およびハラスメント相談)

リテックグループでは、重大な法令違反・倫理違反を発見した際に、不利益を受けることなく通報できる窓口として、ヘルプライン(内部通報制度)を設けています。窓口には第三者機関である弁護士が加わっており、通報者とその内容が保護されたまま、迅速な調査が行える体制を整えています。

ヘルプラインについては、行動規範ガイドラインに利用方法を掲載し、グループ全体での周知を図っています。

また、リテックでは、職場環境の改善を図るための「ハラスメント相談窓口」を2019年5月に設置し運用しています。これは臨床心理士等の専門家に従業員が直接

相談をすることができ、専門家と人事部とのタイアップにより、ハラスメント等の職場での問題の解決を目指す仕組みです。

### 新型コロナウイルス感染症への取り組み

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、リテックグループでは、出張の禁止やテレワークの実施など、状況変化を見ながら対応策を講じてきました。

また、2020年4月、リテックおよびプリンテック\*5は、ソーシャルディスタンスを呼び掛けるフロアマーキング100枚と、テイクアウトを推奨するステッカー3,000枚を製作し、板橋区に無償提供しました。

さらに5月には、フェイスシールド1万個を板橋区に寄贈しました。これらは区内の医療機関や飲食店などで活用されました。



フェイスシールド



テイクアウト推奨ステッカー

## 関連データ

### ■ 社外取締役

#### 掛橋 裕哉

取締役  
(日本製紙株式会社 企画本部長)

日本製紙株式会社での管理部門における長年の業務経験から得た知識・経験等が、当社取締役会の監督機能強化に生かされています。

#### 奥島 晶子

取締役  
(ジェイビートゥビー株式会社 代表取締役社長)

マーケティング分野における幅広い知見、さらには当社とは異なる業界において長年にわたり代表取締役を務めることで得た知識・経験が、当社取締役会の監督機能強化に生かされています。

#### 大岡 哲

取締役/監査等委員  
(中央大学大学院商学研究科 講師、  
リョービ株式会社 社外取締役)

政策金融機関での経験や豊かな国際経験と専門的学識経験、他業界の社外取締役として得た知識・経験が、当社取締役会の監査・監督機能強化に生かされています。

#### 大澤 加奈子

取締役/監査等委員  
(弁護士 梶谷総合法律事務所)

弁護士としての高度な法律知識、幅広い見識、国内外の企業法務に携わることで得られた知識・経験が、当社取締役会の監査・監督機能強化に生かされています。

(2020年7月1日現在)

### ■ 取締役会の開催状況

- 開催数(回) ..... 14
- 取締役の出席率(%) ..... 100  
うち、社外取締役の出席率(%) ..... 100

### ■ 監査等委員会の開催状況

- 開催数(回) ..... 13
- 監査等委員の出席率(%) ..... 100  
うち、社外監査等委員の出席率(%) ..... 100

### ■ 役員報酬などの総額

役員区分	報酬等の総額(百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる役員員数(人)
		基本報酬	譲渡制限付株式報酬	賞与	
取締役 (監査等委員を除く) (社外取締役を除く)	361	266	33	62	10
取締役 (監査等委員) (社外取締役を除く)	19	19	—	—	1
社外取締役	21	21	—	—	6

(2020年3月31日現在)

\*3 BCP: →P 19に記載。

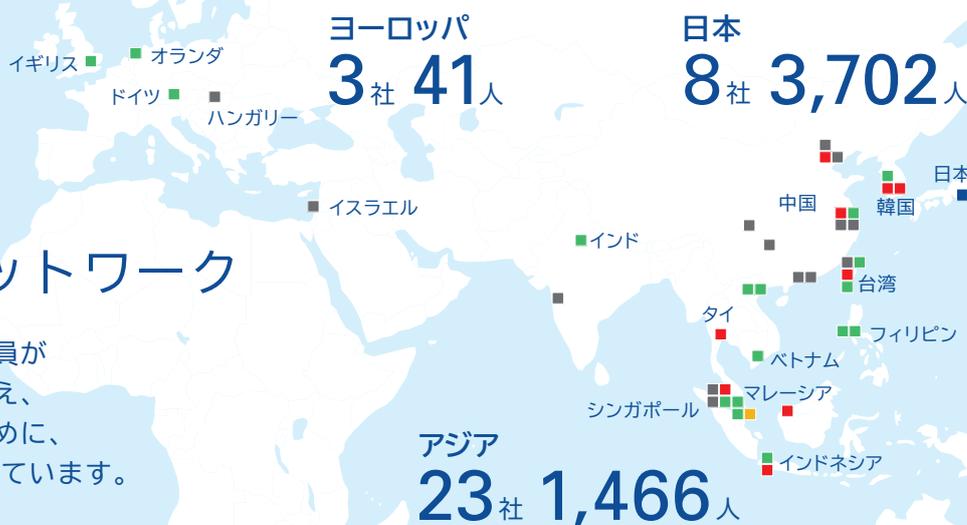
\*4 ISO22301: 地震や火災、ITシステム障害や金融危機、取引先の倒産、あるいはパンデミックなど、災害や事故、事件などに備えて、さまざまな企業や組織が対策を立案し、効率的かつ効果的に対応するためのBCMSの国際標準規格。

\*5 プリンテック: リテックの国内グループ会社。

# リンテックグループ概要

## 活躍を支える グローバルネットワーク

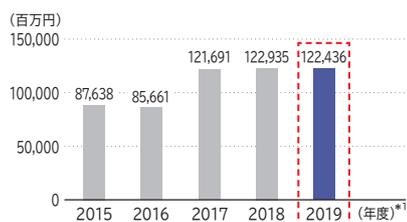
リンテックグループ全従業員が  
ステークホルダーの声に応え、  
より良い社会を実現するために、  
さまざまなCSR活動を行っています。



### 印刷材・産業工材 関連

日用品や食品、家電製品などの表示用ラベルとして使用される粘着紙・粘着フィルム、また、モバイル機器などの部材固定用テープや自動車用粘着製品、業務用バーコードプリンタ、ラベルを自動貼りするラベリングマシン、建物や自動車用のウインドーフィルム、屋外看板・広告用素材、車体装飾などに使用されるマーキングフィルム、店舗装飾などに寄与する内装化粧シートなど、用途や使用環境に応じ、さまざまな機能を付加した製品を提供しています。

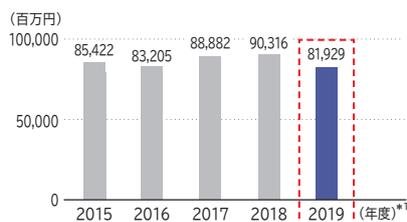
売上高推移



### 電子・光学 関連

半導体チップの製造・実装工程で使用される特殊テープとその特性を生かす装置や積層セラミックコンデンサの製造に不可欠な剥離フィルム、また、液晶ディスプレイ関連粘着製品、タッチパネル関連製品など、独自の研究・開発そして技術を駆使した製品を提供しています。スマートフォンなど電子機器の製造プロセスに対応する素材の展開や、フラッシュメモリ製造に不可欠な高機能テープで、IoT\*2社会拡大の一翼を担っています。

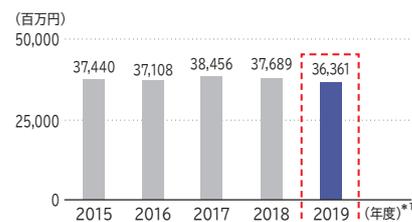
売上高推移



### 洋紙・加工材 関連

抄紙技術を生かし、豊富な色数が特徴のカラー封筒用紙や色画用紙、食品包装用の耐油紙や無塵紙などの機能紙、高級印刷用紙、また、粘着剤面を保護する剥離紙や剥離フィルムのほか、合成皮革や炭素繊維成形品製造時に使用される工程紙など、多彩で多様な製品を提供しています。近年では高い撥水性と印刷適性を兼ね備えたクラフト紙を開発し、封筒用紙や包装用紙、書籍本文用紙として使用されています。市場ニーズに合わせた改善を続けています。

売上高推移



\*1 連結子会社の事業年度等に関する事項はP.03に記載。

\*2 IoT: Internet of Things(モノのインターネット)の略称。建物、電化製品、自動車、医療機器など多種多様な「モノ」がインターネットに接続され、相互に情報をやり取りすること。

北米  
8社 738人

- 生産子会社
  - 販売子会社、事務所
  - 地域統括会社
  - 子会社の工場、支店、研究開発拠点など
- 注) 上記人数は非連結子会社を含んでいます。



## 四つの基盤技術

リンテックグループは、「粘着応用技術」「表面改質技術」「システム化技術」「特殊紙・剥離材製造技術」という四つの技術を基盤とし、さらにそれらを高次元で融合させることによって、より差別化された独自性の高い製品を開発しています。

### 粘着応用技術

粘着剤、各種基材の開発およびその複合技術により、「貼る」「剥がす」という粘着製品の基本機能の応用領域を拡大します。

### 表面改質技術

紙やフィルムの表面に化学的・物理的処理を施すことで、その性能を高めたり、新たな機能を付加したりします。

### システム化技術

機械・装置のシステム化をはじめ、素材の特性を生かした高度なシステム構築で、先進のソリューションを提案します。

### 特殊紙・剥離材製造技術

独自の抄紙技術や塗工、含浸、貼合技術などを駆使し、従来の紙の概念を超える特殊機能紙や高付加価値材を開発します。

## 会社概要 (2020年3月31日現在)

**社名** リンテック株式会社  
(英文: LINTEC Corporation)

**本社所在地** 〒173-0001 東京都板橋区本町23-23

**ホームページ** [www.lintec.co.jp](http://www.lintec.co.jp)

**設立** 1934年10月

**資本金** 232億円

**上場証券取引所** 東京証券取引所市場第1部  
(証券コード: 7966)

**事業年度** 毎年4月1日から翌年3月31日まで

**代表者** 代表取締役社長 社長執行役員 服部 真

**従業員数** 連結: 4,948人 単体: 2,584人

**事業所** 営業拠点: 東京、札幌、仙台、北陸(富山県)、静岡、名古屋、大阪、広島、四国(愛媛県)、福岡、熊本  
生産拠点: 吾妻(群馬県)、熊谷、伊奈(埼玉県)、千葉(千葉県)、龍野、新宮(兵庫県)、三島、土居、新居浜(愛媛県)、小松島(徳島県)  
研究開発拠点: 研究所(埼玉県)

**事業内容** 粘・接着製品(シール・ラベル用粘着紙・粘着フィルム、マーキングフィルム、ウインドーフィルム、半導体関連テープ、光学機能性フィルムなど)、特殊紙(カラー封筒用紙・色画用紙、特殊機能紙など)、加工材(剥離紙、剥離フィルム、合成皮革用工程紙、炭素繊維複合材料用工程紙など)、粘着関連機器(ラベリングマシン、半導体関連装置など)の開発・製造・販売

**売上高 (2019年度)** 連結: 2,407億円 単体: 1,598億円

**営業利益 (2019年度)** 連結: 154億円 単体: 90億円

# 第三者意見

トップメッセージの冒頭に「全従業員の力を一つにして、さらなる一歩を踏み出していきます。」と明記されていることに象徴的ですが、LINTEC CSR REPORT2020から最初に伝わってくるのが、ステークホルダーとして従業員を非常に重視している姿勢です。2018年に立ち上げられたSDGs委員会が、部門や肩書きを超えて幅広く社員を巻き込む形で会社の将来像を闊達に議論する場として機能していることや、グローバル企業らしく、各拠点で多様なCSR活動が実践されている様子が丁寧に拾い上げられている点、「私のネクストステージ」という未来志向の切り口からさまざまな従業員の声を紹介している点など、従業員の皆さんに着目した豊富な情報は、「LINTEC WAY」として提示されている貴社の価値観を読者に具体的に伝える役割を担っており、このレポートの大きな個性をなしています。

近年、企業の長期的な成長性を見極めるべく、環境、社会、ガバナンスなどの非財務的な価値に着目するESG投資が影響力を増しています。CSR活動に関する報告は、このESG投資の観点からも重要な情報です。特に、新型コロナウイルスの流行を経て、今後は、従前以上に社会的側面、すなわち雇用基盤としての企業の役割が重視されるようになって考えられますので、貴社レポートがこの面で有するポテンシャルは非常に大きいといえます。そこで、今後期待するポイントを、この観点から述べたいと思います。

「人」に着目したこのレポートの価値をESG投資の世界のロジックにつなげる鍵は、トップメッセージと特集のSDGs対談において服部社長が強調しておられる「イノベーションを生み出すために、従業員一人ひとりが最大限に能力を発揮できる環境づくり」にあると思います。①今後予想される外部環境の変化によって貴社の競争力はどのようなリスクと機会に直面するか、②それを新たな成長につなげるイノベーションは何か、③その担い手である人財をどのように育て、もてる力を存分に発揮してもらうのか、レポートを通底する一本のストーリーとして構築し、

株式会社日本政策投資銀行  
執行役員  
産業調査本部副本部長  
竹ヶ原 啓介氏



貴社の長期的な成長戦略と「人」を重視する経営姿勢とを有機的に統合していくことが期待されます。このストーリーを構成するうえで、貴社がSDGsを重視していることは極めて有用です。現在検討中の長期ビジョンに絡めて、これから直面するリスクと機会の特定にSDGsを活用することで、社会課題の解決と企業の成長を同期させることが可能になるからです。

長期的な成長（ビジネスモデルの持続可能性）に大きな影響を与える非財務的なファクターを「マテリアリティ」と捉えれば、このストーリーを検討する過程で、現在見直しの議論が進んでいる貴社のマテリアリティも自ずと定まってくるように思われます。そこでは、おそらく、製品およびサービスを通じた環境面での貢献とこのレポートが一貫して重視している人財力がキーワードになってくるでしょう。例えば、アフターコロナ時代を特徴づける急速なデジタル化の進展は、貴社の電子・光学技術に大きな機会をもたらすとともに、顧客の生産性改善等を通じて社会にも環境面で大きなインパクトを与えると期待されます。貴社の事業を通じて社会に提供される、こうした「価値」とこれを支える「基盤」としての人財の両面から捉えることで、貴社の長期的な成長を分かりやすく表現するマテリアリティになると考えられます。

従業員を主題に創りあげた際立った個性を生かしつつ、その潜在力を生かしてより幅広いステークホルダーに貴社の強みを伝えるレポートへと進化するよう期待しております。

## 第三者意見を受けて

2020年度版で初めて竹ヶ原様から第三者意見を頂戴いたします。当社グループが従業員を重視している姿勢と雇用基盤としての企業の役割において、本レポートが有する潜在的な力を高くご評価いただきありがとうございます。

SDGsを活用したリスクと機会の特定およびイノベーションによる成長、さらにこれを担う人財の育成および活用を一つのストーリーとして有機的に統合し、社会課題の解決および会社の成長につなげていきます。

マテリアリティについては、SDGsへの取り組みを企業として意識しなくとも自然に実行されるべきことと考え、社会課題の

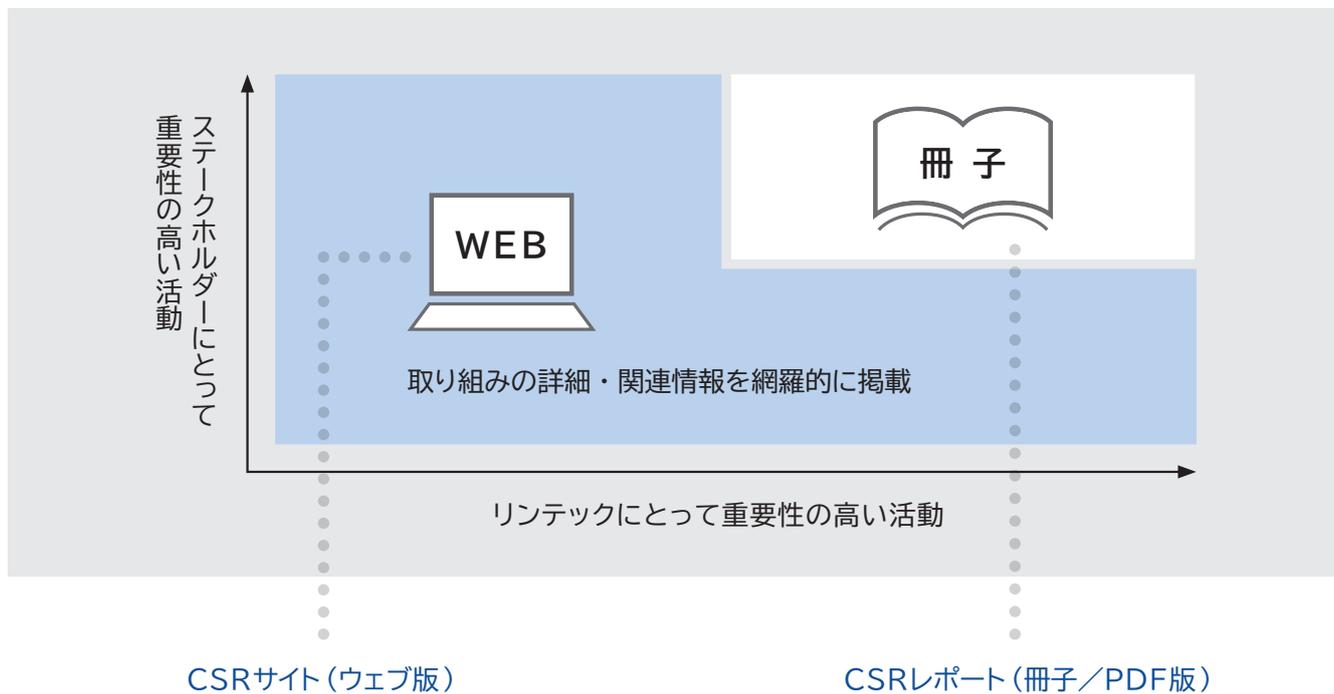
解決に貢献できる「価値の提供」と「基盤となる人財」の観点から、長期的成長につながる重点テーマを特定していきます。

今後も頂いたご意見を真摯に受け止め、社は「至誠と創造」を根幹としたCSR経営を全従業員と推進し、志を持った「ものづくり」から世界の課題解決、持続可能な社会の実現に貢献する企業を目指してまいります。

リンテック株式会社  
代表取締役社長 社長執行役員

服部 真

# CSR情報を開示する主なメディア



リンテックグループのCSR活動をより幅広くより詳細に掲出  
2020年10月更新予定(前回更新:2019年10月)

[日本語版] [www.lintec.co.jp/csr](http://www.lintec.co.jp/csr)

[英語版] [www.lintec-global.com/csr](http://www.lintec-global.com/csr)



2019年度版

冊子はリンテックグループのCSR活動を分かりやすく掲出  
PDF版では英語版を作成。その他、抜粋版を韓国語、中国語(繁体字)、  
中国語(簡体字)、マレーシア語、インドネシア語、タイ語にて作成。

## 編集後記

トップメッセージでは、社是「至誠と創造」を根幹に置き社会課題の解決に貢献していくことが、当社グループの社会的責任を果たす取り組みである点に触れています。

特集では、2018年から始めたSDGs委員会活動について対談を掲載し、SDGsを経営に組み込んでいくことが、当社グループの持続的な成長に必要なイノベーションを生み出す活動につながるとしています。

また、バリューチェーンにVOICE欄を設け、原材料調達・研究開発・製造におけるSDGs視点での活動を紹介しました。

本レポートの作成にあたっては、例年以上に多くの支援を頂き、無事に発行までたどり着くことができました。当社グループが社会とともに持続的成長を遂げるために、全従業員が自ら考えて行動を起こし、一体感を持って活動することを目指しています。

本報告書の内容に関するご意見、  
ご質問などがございましたら、  
下記までお問い合わせください。

## リンテック株式会社 CSR推進室

〒173-0001 東京都板橋区本町23-23  
TEL: 03-5248-7731 FAX: 03-5248-7760  
E-mail: [csr@post.lintec.co.jp](mailto:csr@post.lintec.co.jp)

本報告書はインターネットでもご覧いただけます。

**URL [www.lintec.co.jp/csr](http://www.lintec.co.jp/csr)**



植物油インキを使用しています。

当社高級印刷用紙「ニューアージュCoC」を使用しています。

20.08.7500 1117